

そ の 他

その他(テーマ :新しい市が誕生したときに、「自慢したい」、「残したい」、「伸ばしたい」、「くふうしたい」ものは？(政策、住民の取り組み、場所、祭り等々))

	市町村名	年齢	性別	提言
1-2	川内市	41	男	自然景観(川内市の清らかさをいつまでも)(冠岳や甕島の池群、トンボ口など、海岸線の美しさをいつまでも西方、唐浜、鹿浜/土川から羽島の海岸線、吹上浜砂丘の一部である串木野の海岸) 新幹線の新駅である川内駅を有効活用して交流人口の増大とお金のおちる街にする。
1-3	川内市	41		海岸線、この頃少々汚くなっていますが、海水浴前等、地域をあげて清掃を実施するなど、いろいろ苦情はあると思いますが、青い海岸線を守るため行っている、残したい、自慢したい事のひとつです。
1-6	川内市	28	女	誰が何ってたって、「男女共同参画政策」です。
1-9	川内市	30	男	川内(せんだい)という言葉、市の名称はかわってもどこかに残ってほしい。花火大会、大綱引きなど。
1-10	川内市	31	男	川内市としては、川内大綱引き、今3000人くらいでやっているが、5000人くらいで引き合えば、まだ盛り上がるのではないか。こういう祭の時に、もっと地元の特産品を売り出すとか、いろいろなPRをする工夫ができるのではないか。あと、寺山から見える風景(雲海)や、西方から見える東シナ海、こういう風景はよそではなかなか見ることができない。工夫次第で観光客も呼べると思う。
1-14	川内市	29	女	川内川花火大会と川内大綱引き等は自慢できるものなので、是非残して欲しいと思う。女性政策は、合併する他の市町村にひけをとらないと思っている。(県内トップクラス!)他の市町村のレベルアップを図りたい。
1-15	川内市			希少価値のあるもの"場所"等々の活用
1-17	川内市	51	男	地域(校区・公民館等)の自治の範囲を拡大する仕組み。地域に密着した事業(道路河川維持、農村水産小規模事業等、高齢者等福祉事業等)は、地域住民が自ら係る仕組み(財源、事業手段)を創設する。
1-18	川内市	51	男	県管理二級河川 湯田川水系の水循環の社会実験 小規模水系であるため、水循環の再生、保全の取り組みが実験に適す。
1-19	川内市	51	男	広大な過疎の発見 取り残される不安は、過疎がさらに広大となることを住民が発見することで解消される。どこも一緒だという発見による安心。
1-20	川内市	39	男	祭りイベント等は、補助金の有る無しに関係なく、一大行事的なものを残し、動員をかけるようなもの、単純に例年実施するから続ける様なものなどは廃止していくべきである。
1-43	川内市	39	男	西方の海岸線及び海に関するもの、自然 別々の町、市がひとつになるので、道路標識や道路そのものを工夫してそれぞれわかりやすくする必要があるのではないだろうか。
1-52	川内市	26	女	これからの高齢化社会を考えると、生涯学習は「生きがいづくり」という観点で、とても重要になっていくと思う。様々な生涯学習の紹介やボランティアの紹介など、総合的な学習情報提供及び相談を行える生涯学習センターを作り、活気のあるまちにしたい。
1-62	川内市	51	男	地域自治の主催者、主催団体の育成
1-66	川内市	58	男	大綱引きとはんや祭りは市民の手作りで...工夫したい 温泉地を利用した観光地、観光農園(清水ヶ丘・湯田西方地区)...伸ばしたいこと 離島の甕島まで同市であること。(自慢したいこと) 川内川花火大会と広い河川敷は残したい。
1-67	川内市	36	女	住民の声(意見)を反映できる組織があればよいと思う。
1-68	川内市	39	男	スポーツ振興のまちとして、伸ばしてもらいたい。「樋脇・串木野・川内」などスポーツが盛んで実力的にもしっかりしている。

1-73	川内市	53	男	古い歴史と豊かな自然。港を活用すること。今後は、自治体独自の環境を活かした施策。
1-77	川内市	46	男	合併する各市町村の文化と伝統は守りつつ、新しい伝統文化をつくっていく。また、そんな自由な意見が市民の中から生まれる風土づくりに取り組んでいただきたい。
1-80	川内市	33	女	川内大綱引き(残してほしい) はんや祭りはいらぬ。したとしても、周辺市町村の同じような祭りや合体した方がいいですね。
1-85	川内市	28	男	花火大会やテーマパークをもっともっと考えていってほしい。
1-89	川内市	25	男	いずれ新幹線や高速道路が整備されるので、鹿児島市への通勤圏内に入ると思う。だから、人がたくさん集まってくるような町にした方がいい。
1-91	川内市	26	男	川内川や花火大会が有名なので、その辺をもっといい風にして伸ばしてもらいたい。
1-94	川内市	30	女	花火大会、大綱引き。もっと福祉や教育に重点を置いたまちづくり。
1-98	川内市	40	男	川内川や東シナ海の自然。自然を生かした産業をおこしていくこと。海や川を生かしたり、温泉を生かしたりした地域づくり。公共の温泉施設などがあるといい。
1-104	川内市	41	男	九州新幹線開業に合わせた川内駅周辺整備。旧市町村の地域特性を活かした川内駅周辺整備 地域コミュニティが充実し、安心して暮らせるまちづくりの推進。豊かな自然と文化を活かした地域振興策の推進。北薩の中心としての生活基盤の整備
1-105	川内市	48	男	川内大綱引き・花火大会は自慢したい。各地の史跡や郷土芸能は残したい。くるくるバスや単一料金バスを関係市町村まで拡大する。また、山村留学の範囲を広げ、過疎の町村に拡大する。市町村職員の移動も段階的に支所等に増やし、住民との相互理解と住民との親睦を深めていくことが大切であるとする。
2-2	串木野市	33	男	これについては、政策等必要ではなく逆に「自慢したくない」「残したくない」等のいらぬものを上げた方がいいのでは？
2-6	串木野市	26	男	若者の集まる場所をつくってほしい。
2-7	串木野市	38	男	各地域の祭事(太郎太郎祭など) さのさ祭りと川内大綱引きを合併して都市の大きな祭りにしたい。
2-10	串木野市	50代	男	合併前の市町村で恒例となっていた大きな催しの開催を広く新市の住民に広報周知し、各地からシャトルバスを運行するなどして、多くの新市民の参加、見物を得た上でアンケートを取り、長い目で新市の行事として残すかどうかの判断に新市民の総意で決めれば良い。
2-100	串木野市	31	男	浜競馬、冠岳山市、ちかえて祭りは、串木野の特色がよく出ており残してほしい。また照島から羽島にかけての海岸線は特に美しい。クリーン作戦などは是非続けてほしい。
2-104	串木野市	44	男	川内、串木野、甕島が海に面しており、海産物、水産資源、新鮮な魚介類の供給基地・食べられる場所として伸びてほしい。原発のイメージが強いので、環境面(ゴミの分別・省電力・下水道等)の整備促進を図り、地域のイメージアップを望む。
2-106	串木野市	50	男	現在川内市の大綱引きをメインイベントとしてやり各市町村でも前夜祭的に開催する。冠岳の史跡、歴史を残す。薬草園をつくり、薬草料理をたべさせる所をつくり観光会社を結び昼食をとらすようにする。又、薬草園は地元の人を雇う。園の中に小さくてよいので資料館をつくる。
2-107	串木野市	50	男	串木野市の近海は魚の宝庫である。人情豊かな地域 大きな市になっても過疎地の人々が安心して暮らせるよう、公民館活動を工夫したいものである。串木野という名を残したい。
2-113	串木野市	39	男	住民参加による政策の展開(出資、事業参画)を図り、住民の意識改革を行う。政策を行うに当たり、住民の出資とアイデアを募り、運営組織への自主的な参加と組織づくりを行う。(株式会社等) そうすることで、行政及び政策と住民との関わり方も新しい方向へと転換する。(住民も政策へ必然的に参加する)政策の展開について、自発的な広がりや提言が望める。

2-114	串木野市	30	男	冠岳については、串木野市において自然の里づくりとして事業進めており、ハナハナ所巡りなどと合わせ、歴史のある観光スポットを目指すものであるが、あの一体だけでなく川内側のレストラン等樋脇の温泉宿泊ゾーンや冠岳をとりかこむ地域を結ぶ交通施策を充実させて、広範囲の観光地づくりを目指す。スポーツ国際交流員招致事業により、広まっている気功をより根付かせ、継続させるため、多数の指導者を養成し、音楽も防災無線で流し、ラジオ体操のような形をとる。また、小中学生の夏季のラジオ体操についても気功を加える。最近の「まぐろラーメン」「まぐろ餃子」は、「まぐろのまち串木野」のイメージと、市民生活の実態との隙間を埋めるものとして大きな役割をもつものになり話題も集めている。このような昔から根付いている資源、イメージを大切に、工夫することで合併後も特色のある地域として生きてくる。「まぐろラーメン」については、麺を扱う店舗に限られたため、まぐろ村等まぐろを常時食べられるような店舗の広がりをつくりたい。
2-116	串木野市	37	男	伝統行事・祭りはそれぞれの市町村で行われており、それがあると春がきたとか風物詩となっている。少子高齢化が進んでいく中、後継者育成、存続が懸念されるので、それぞれの地域での活動への補助や一同に会しての発表の場を設ける等、地域住民の交流を行うことにより、ここに住んで良かった、これからも住み続けたいというようになるのではと思う。
2-117	串木野市	42	男	エネルギー供給基地としての役割 中国東南アジアに最も近い地自体 豊かな海産物、温泉、川内川
2-119	串木野市	53	男	また、工夫したいこととして、新しい市が誕生したときは、市内の人と人との交流を活発化し、交流連帯による協調意識形成を早急に高めて行く必要があり、これへの対応の一つの例として、市内各地域での祭りなどのイベント等において、それぞれの地域からの大型バス数台を利用して、多人数の招待を行って交流など工夫してみたらどうでしょう。自慢したいことは「大型商業港を2箇所備えた町」ということである。これは、中国沿岸都市と今後益々発展して行くであろう交易の拠点都市として、地理的条件と共に優れた条件下にあるということである。
2-120	串木野市	30	男	海を生かした町づくり 鹿児島市内より大きい水族館 自然エネルギーを利用した町づくり 電力会社の設立
2-122	串木野市	45	男	イメージとして、薩摩半島で中国・東南アジアに開かれた市であり、これからの将来性を感じられるところ。「しま・みなと・おか」の三拍子揃った自然が自慢のまちで、その3つの味が楽しめる町。交通が高速道路・新幹線・鹿児島本線・長崎航路・上海航路などが利用できて、空港にも至近の交通要衝の町。こういうところを自慢したいし、伸ばしたい。
2-123	串木野市	30	男	海岸線の美しさは自慢できる。特に土川から唐浜へと続く海岸線は海の色、景色ともすばらしいと思う。後世に残すべきものとして、行政の認識が必要かと思う。
2-125	串木野市	33	男	人が集まれば、自然と勢いが出てくるものだと思います。定住者・夜間人口だけでもよいと思う。例えば、都市近郊のベッドタウンと呼ばれる町でも自然と町に活気がでてくると思う。住宅事情の向上が第1だと思います。私自身電車通勤の経験がありますが、その当時は会社のある町と住居のある町がどんなに離れても駅の近くに住めればよいと感じていました。安価で民間賃貸の住宅の整備促進、入居制限のない公営住宅の整備促進インフラの整備促進を図ってほしいです。余暇、レジャー施設は町の活力につられて民間の活力でできてくるのが当たり前であってほしいです。
2-127	串木野市	39	男	「自慢したい」...豊富な水産資源、近海の水産物、遠洋のマグロ 「残したい」...串木野浜競馬、海水浴場 「伸ばしたい」...地元雇用、ゴミ分別収集、海洋レジャー(魚釣り等) 「工夫したい」...住民サービス、職員採用 市外からの採用重視
2-130	串木野市	35	男	行政主導型の政策ではなく、住民主導型、市民先導型の政策、イベントを行ってほしい(補助金があるから実行するイベント事業ではないこと)
2-131	串木野市	31	男	「自慢したい」...? 「交通の便(鉄道・新幹線の)」? 「残したい」...旧市町村の名前、地区の名前 「伸ばしたい」...人口 「くふうしたい」...面積が広くなりすぎるので、それにふさわしい行政(対応できる)
2-133	串木野市	49	男	大型新港を活用した外国との交流、貿易を伸ばす方向へ
2-14	串木野市	26	男	串木野市の都市像である「活力あふれる豊かな都市づくり」は、合併後も同じ目標で残してほしい。
2-140	串木野市	33	男	自然との調和を基本にした町づくり政策
2-141	串木野市	34	男	串木野新港の活用、川内港が開発指定を受けているが、合併後串木野新港も開発指定とならないか、南九州西回り自動車道の整備に伴い、コンテナ等の輸送に時間短縮が回れ、鹿児島市の港に揚げるよりも効率がよくなることが考えられる。またそれに伴うポートセールスも必要。

2-144	串木野市	48	女	文化的施設や環境を整備したい。都市部でないと開催できないようなコンサート等が地元で開催できたら市民の文化的レベルや関心も向上すると思う。
2-145	串木野市	46	男	福祉政策の後退は、住民の反発が大きいため財政の許す限り、サービスの高い所に合わせてほしい。なお、元気老人政策として、予防を重視して欲しい
2-22	串木野市	55	男	太古の昔から川沿いに人々は集まりそこに集落が形成され、文化は育まれてきたのである。文化・歴史の流れを尊重し合い、県内外の注目を集められる工夫を講じていくべきと考える。
2-24	串木野市	27	男	青年団活動
2-28	串木野市	34	男	薩摩半島西岸部の沿岸部を占める位置にあるので、自然な状態で残すべきは守ってでも未来に残していくことを考えてほしい。
2-31	串木野市	21	男	留学生渡欧の地 明治維新を支え、近代日本の礎を築いた人々が旅だった地、観光資源にするだけでなく、その精神に習い、先駆的取り組みを行える町になればと思う。
2-35	串木野市	32	男	串木野にせっかく温泉施設ができたのだが、もっと若い人も集まる様にフィットネスクラブやトレーニングジム等を設置してみても、[金]よりも、マグロやさつま揚げの知名度があるので、[食]に関する名産はもっとアピール工夫していった方がいい。
2-45	串木野市	52	男	今の市町村名称を何かの形で残してもらいたい。新しい行政がスタートすると本庁と支所との職員の人数配置により部所によっては市民へのサービス低下と新しい職場(市町村)に配置された場合、用地交渉等事業が進まないことになる異動時には十分な検討を。
2-46	串木野市	44	女	串木野さのさの歌が大好きです。さのさ祭りなど残してください。温泉センターなどの大きな設備をつくっていただきたいです。
2-47	串木野市	43	女	他の市町村に負けないような串木野さのさ祭りを自慢したい。さのさが全国に通じるようにPRしたい。東シナ海に広がる照島海岸、長崎鼻の夕日は最高。若い人たちが働きやすく活気あふれ、未来につながる政策が必要と思います。
2-50	串木野市	47	男	住民が生き生きと参画できる市政、施策の立案に努力してほしい。(住民参画制度)地域コミュニティを大事に～河川、海、山の自然環境保全の為に清掃活動 etc を企業も巻き込んだ形で。
2-54	串木野市	26	男	串木野は素晴らしい海岸線があるのに、目玉になる様な海岸線施設がないので、もう少し工夫が欲しい。
2-56	串木野市	39	男	自然の景観(海・海岸線・山・森林・川)を後世に残したい。さのさ祭り、浜競馬等は残すべきものである。現在、各市町村で行われているサービスを新市となった後も従来と変わりなく、さらにはよりよいものとなるようすべきである。
2-61	串木野市	39	男	豊かな自然保護 港湾都市政策の継続
2-65	串木野市	42	女	まぐろラーメン、まぐろ丼。八房、平江、野元、別府で行われている公民館自主活動。介護予防の取り組み リズム体操のつどい
2-67	串木野市	30	男	さのさ祭り、冠嶽祭、れいめい祭。荒川地区での自主的な住民の活動意識 浜競馬
2-73	串木野市	52	男	地域間交流の促進。各市町村において、定めている総合開発計画の達成をめざし、まちづくりに取り組んでほしい。
2-74	串木野市	32	男	串木野市は、他の市町村にない歴史的財産を生かした国際交流を行っているため、この分野を今まで以上に、活用した国際交流を活用し、特徴のあるまちづくりを進める。旧市町村には観光資源が数多くあるが、有機的に連携をとるような施策の展開を図る。住民のニーズを明確に把握し、それを実現する。簡単ようであるが、一番難しいことであり、アンケートとかでなく、住民と直接話しが出来る体制づくりが必要である。自然と市民を勧誘ができ、市民も提案しやすい体制の整備を行う必要がある。そのためには、市職員は、まず地域の実情を把握することが重要である。
2-78	串木野市	54	女	今ある自然に手を入れすぎずに、魅力あるあそびを取り入れ、県外からでもこられるような祭り、年に一度でなく常に利用できてやはり金が市に入るような取り組みをしてほしい。
2-83	串木野市	29	女	自然を残して欲しい。海や山があるから人が集まるような街にして欲しい。

2-85	串木野市	54	男	各地区には、目的・趣旨が同様な祭り・イベント(夏祭り、花火大会、マラソン大会、体育大会、産業祭等)があるが、これらについては見直しをするか工夫する。しかし、各地区には、伝統がありその地区の顔になっている祭・イベント(例えば串木野浜競馬等)があるが、これらの祭・イベントについては、新しい市の顔として更に充実を図る。また、各地区の郷土芸能については保存に努める。川内・串木野の港を生かしての、中国・東南アジア諸国との貿易を進める。串木野は海とともに栄えてきたまちであり、その特性(他の市町にないもの)である。「遠洋まぐる基地」を生かしてまちづくりに努める。
2-89	串木野市	46	男	これまで市全体として取り組んできた重点政策(活力あふれる都市づくり)はしっかりとやりとげてもらいたい。特に総合運動公園。
2-92	串木野市	45	男	特色あるまちづくりとして、地理的に有利な中国を利活用した政策を推進すべき。
2-93	串木野市		女	季節、季節の祭りごと、(地域全体で協力すること)絶対に関係者だけで盛り上がらないでみんなで仲良く!
2-98	串木野市	38	女	海に面しているの、海を活用したレジャーランドを作ってほしい。活用性のないものや必要性のないものは省き作らず、住民の意見を尊重して
2-99	串木野市	46	女	長崎鼻公園を何とか串木野の名所としてもっと開発ができないものでしょうか。
3-10	樋脇町	37	男	スポーツのまちで元気をつけたい
3-11	樋脇町	26	男	他市町村へのホッケーの普及
3-15	樋脇町	26	女	“温泉とホッケーの町”として発展してきた歴史ある町であるから合併後も樋脇の字を残し、“温泉とホッケーの町”として永続できれば。
3-19	樋脇町	25	男	各地域の夏祭りや盆踊り等 ホッケー、サッカー、フットサル等のスポーツ施設等の工夫や温泉を利用したプロチームなどのキャンプ地への工夫など
3-20	樋脇町	25	男	市比野商店街 遊湯館
3-21	樋脇町	28	男	市比野温泉
3-25	樋脇町	36	男	原子力発電所等及び港湾都市としての町づくり
3-26	樋脇町	44	男	各地域の良さを残しながら新しい施策に取り組む方向で進む
3-30	樋脇町	57	女	緊急土地基盤整備作業 スポーツ行事(ホッケー大会、サッカー大会、丸山駅伝大会)各地区の伝統行事
3-31	樋脇町	25	男	温泉をもっとアピールして昔の活気を取り戻したい
3-32	樋脇町	55	男	合併はふるさとの再編成である。旧市町村のもっている人材、文化、産業等の資源を融合し、活用する。(川内市が行っている中国との交流事業の一層の推進、串木野漁港を核とした遠洋漁業、薩摩地域の温泉リゾート、甕島地区のシーサイド活用等)
3-34	樋脇町	23	女	温泉とホッケーのまちという歴史を絶やすことなく残したい。今の市比野温泉は少しさびれているというイメージがある。街路樹等を植えて「もう一度行きたい」と思わせるような景観作りも必要。各市町村で行われている郷土芸能は残しておくべきである。
3-36	樋脇町	56	男	温泉保養基地としての市比野温泉 道の駅「遊湯館」 ホッケー競技
3-37	樋脇町	25	男	温泉、スポーツ
3-40	樋脇町	49	男	地位喜寿明の声が良く生かされる組織体系を考えなくては、自然とそのものは残されるものであると考える。
3-41	樋脇町	35	女	海や山のある自然豊かなまちになるので、その自然を守ることを宣言し、実行していくことが、残したいもの、自慢したいものにつながると思う。
3-42	樋脇町	27	男	温泉のまちとして樋脇町を残してほしい。例えば運動した後、温泉に入れるというようなスポーツと一体化した温泉施設の建設など
3-45	樋脇町	56	男	住民の一体感を高める政策(イベント等) 海と温泉の利用(PR)

3-47	樋脇町	55	男	市比野温泉
3-49	樋脇町	23	男	市比野温泉
3-50	樋脇町	33	女	市比野温泉の町並みをきれいに整備して、古くからある上質の温泉をもっと多くの人に利用してもらえるように
3-51	樋脇町	43	男	市比野温泉 ホッケー、サッカー施設の充実 合宿、大会の呼び込み 四季折々の祭り、イベント
3-53	樋脇町	40	男	市比野温泉を新市の観光保養地として位置づけ、13万都市相応の施設景観整備を進めていく。 ホッケーの全国大会等で活躍できる環境(施設、人材、バックアップ等)の堅持
3-58	樋脇町	22	女	市比野温泉と県内でも数少ないスポーツ・ホッケーをぜひとも残したい。もっと多くの人に知ってもらい利用してもらいたい。
3-59	樋脇町	55	男	丸山自然公園と市比野温泉の活用
3-6	樋脇町	24	男	市比野温泉 田代ニュータウン ホッケー
3-61	樋脇町	49	男	伸ばしたい物として樋脇町丸山公園のサッカー場施設が完成するにあたり、隣接の市町村と一体化とし各試合はもとよりリーグの強化合宿等の誘致等計画し、利用率100%に近づき取り組みをしてほしい。
3-63	樋脇町	22	男	ホッケー、温泉、夏祭り(花火大会)、焼酎
3-65	樋脇町	59	男	川内大綱引き、川内花火大会、自然豊かな蘭牟田池、山で象徴される丸山公園、各地域点在する文化史跡、またスポーツ施設を活かしたイベント、合宿等の誘致に工夫したいものである。住民が交流出来る交流広場、祭り広場等の工夫をしてもらいたい。
3-66	樋脇町	46	男	農業の町であるので地域農業振興に対する担い手、認定農家等への支援は今後も残してもらいたい。
3-67	樋脇町	31	女	現在持っている昔ながらの温泉施設等はそのままだがよい。
3-71	樋脇町	28	女	温泉、ホッケー
3-73	樋脇町	51	男	自然豊かな山、川、海、温泉を活かした観光のまちづくり 市比野温泉 ホッケー
3-74	樋脇町	51	男	合併により樋脇高校、入来高校問題が必至になることが懸念されます。樋脇高校の名前だけは残してほしい。
3-75	樋脇町	58	男	丸山を活かしたイベント等及び郷土芸能、以前の様に実施を要望。市比野温泉の名前は残して欲しい。
3-76	樋脇町	39	男	現在まで築き上げてきた「ホッケーの街」としての取組及び実績の継続。「ホッケーの街」として基盤となっている樋脇高校の入学者の増加対策及び存続
3-8	樋脇町	54	男	農業を地域産業の基幹として位置づけし、農業生産基盤の整備、担い手の育成に努力している。樋脇高校の充実、丸山公園、市比野温泉、スポーツ(ホッケー、サッカー等)連動してイベントの継続強化 *倉野磨崖仏
3-81	樋脇町	40	男	温泉資源の活用、充実 部門ごとの拠点づくり
3-84	樋脇町	20	女	倉野の奴踊り、塔之原1区の花尾染、武士踊り、藤本の椿踊り、野下の鎌踊り、上手の太鼓踊り塔、郷土芸能が廃れていかなないように残していけたら。「温泉とホッケーのまち」をアピールする。自慢したい。
3-9	樋脇町	35	男	海、山、田園、温泉を活用した町づくり(リピーターができる町づくり)
4-1	入来町	55	男	全国で50番目となる入来町の重要伝建地区(来秋:国の選定)と清色城跡(同時期に国指定)は川薩地方一帯を長期間治めた入来院氏の歴史を象徴するものとして、施設整備方に今後力を入れていけば、圏域にとって魅力あるポイントになります。

4-2	入来町		女	残す：入来町の郷土芸能(太鼓踊り等)文化財 伸ばす：山之口のふれあい館もお風呂でなく温泉に(副田温泉場のお客さんが少なくなるから…と聞きますが…)山之口は、ふれあい農園があり、川あり、温泉になると(温泉があるかを聞かれます…)お客さんが増えるのではないのでしょうか？今後のテーマとして…。きんかん狩りが(他でやってないから試しに…1ヶ所だけでも)…あったら？冬は寒いです。ハウスの中は暖かくて…家族連れが喜ぶのでは？きんかんを使って作ったお菓子、きんかんワインが出来る。説明書も加えて…。
4-7	入来町	23	女	少子化が進むのには、共働きの夫婦や、教育費等に費用がかかる為だと思うので、共働きの家庭の為には安心して子どもを預けられる施設の増加が必要だし、子どもがいることで、家計を圧迫するのなら、何らかの助成を増やして負担を軽減してあげられるようにするべきだと思う。
4-9	入来町	46	男	全国的に平成の大合併が進み同規模の自治体が多く存在する中で、金太郎あめ的な旧来のイメージを打破する画期的な新市作りをするため、役所的な手法を極力避ける。(ピラミッド型人事構成からリーダー制導入など)並びに市民の意識改革のため住民参加型の意見集約などを積極的に導入する。
5-2	東郷町	30	女	フルーツの里
5-5	東郷町	46	女	東郷は藤川天神が一番自慢したい場所。天神の梅ということでもっと梅の木を街路樹としてメインとなる物をもっといろんな面で活用していくようにしたらどうでしょうか。
5-6	東郷町	28	男	親水公園、藤川天神、臥竜梅、各市町村ごとのスポーツ団体、梅マラソン。東郷町の果物(いちごも含む)
6-13	祁答院町	47	男	海、山、湖、温泉、川内川、新幹線、港等を活かしたい。(観光、健康づくり、都市農村の交流等に)
6-14	祁答院町	53	男	川内大綱引き、串木野浜競馬等市町村の大きな伝統行事としてあるもの、集落毎等に引き継がれているものについては継続していけるような施策を、花火大会、マラソン大会、産業祭(ふるさと祭)等現在各市町村毎にある同種のイベントについては、特性を生かし2~3ぐらいに集約を。
6-18	祁答院町	48	男	PGA ゴルフツアー開幕戦の継続
6-2	祁答院町	55	男	温泉活用：健康づくりと観光開発を含めたスタンプめぐりにより、新市の再発見を。伝統行事(イベント)を残していく。
6-3	祁答院町	48	男	「農・漁・商」が一体となった新市づくり「地産地消」に力をいれた政策 町民運動会、納涼花火大会を残したい。 蘭牟田池周辺整備、矢立せせらぎの里を整備し市民の憩いの場としての活用
6-6	祁答院町	51	男	各市町の持っている個性、特色を活かし連携した魅力ある都市づくり
7-11	里村	56	男	離島特有の自然、環境、あらゆる面から見て島でしか生息していない野生植物等の保護、特別保護地区等の設置が望ましい。
7-15	里村	32	男	「自慢したい」 県内第2位のスケール 「残したい」 郷土・芸能 「伸ばしたい」 知名度 「くふうしたい」 地域個性・特色
7-2	里村	55	男	東シナ海に面している、中国との交流を今以上に続け拡大してほしい。将来を見据えて、中国語の語学学校や漢方薬等健康関連の交流を始めて、これをこの圏域独特の取り組みに発展させる。
8-3	上甕村	62	男	「こしき大明神マラソン大会」「こしき太鼓」「太鼓ばやし」等の育成と継承 「鹿の子百合」の原産地として残す 真珠養殖港を活用した施策 園芸(パッションフルーツ)生産グループの育成
9-2	下甕村	52	男	中心都市部のみならず遠隔過疎地にも充分配慮された政策を切望する。

9-5	下甌村	30	男	本土と離島という灘を隔てた合併が良くなるも悪くなるもは、住民が安心して暮らせるかが一番の問題である。そのため、本土と離島の間にも少しでも差が出ないように住民の細かい意見を反映、改善できる体制を構築してほしい。
11-6	川内地区消防組合	43	男	川内という地名を残して欲しい
13-1	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	38	男	新港開発、ちかえて祭りのアピール。昔の町並み(レトロ)にして発展していくように。
13-2	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	49	男	現状を把握してなくて何とも言えない。
13-4	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	32	男	「特産品」他の地域から見て代名詞といえる特産品を考える。「祭」地域公民館の祭に地域住民の参加者を増やす為に何か方法はないのか？
4	個別応募：川内市	31	女	自慢したいもの・山、川、海といった豊かな自然・おいしい特産品、癒される温泉・伝統行事、歴史 残したいもの・歴史を感じるもの(遺跡・建物・伝統行事・郷土芸能等)・それぞれの市町村が今持ち合わせている個性 伸ばしたいもの・それぞれの市町村が今持ち合わせている個性をさらに充実・各世代がともに楽しめるイベント・各地の可能性、人々の可能性 くふうしたいもの・各世代がともに楽しめるイベント(小さい子供連れも、若年層も、お年寄りも)またはそれぞれが年代別で楽しめるイベント・住民参加型のイベント・普段の生活で気軽に利用できる公共施設、催し物・各世代それぞれに対応した広い意味でのまちづくり
6	個別応募：川内市	35	男	自慢したいもの・川内大綱引き、川内花火大会 残したいもの・川内大綱引き、川内花火大会 伸ばしたいもの・個性、特色のある街づくり くふうしたいもの・何を造るにしても自然や地域にマッチしたものを造っていけたらよいと思います。
9	個別応募：川内市	4	女	自慢したいもの：古くから、政治・経済、交通の中心地であったこと。残したいもの：各地の地名や伝統・文化 伸ばしたいもの：中国・東南アジアに近いという地理的優位性。工夫したいもの：新市域内の移動距離・移動時間の短縮化。
10	個別応募：川内市	28	男	自慢したいもの：川内川 残したいもの：自然 伸ばしたいもの：都市開発、人口、住宅地 くふうしたいもの：原子力発電所、寺山公園、川内川河川敷

その他(テーマ：「魅力あるまち」「活気のあるまち」「幸せを実感できるまち」にしていくためには、何が大切で、何をしたらよいと思いますか?)

	市町村名	年齢	性別	提言
1-3	川内市	41		世代間交流が身近で行われたら良いのではないのでしょうか？近所で交流ができれば1番良いと思います。忙しい社会に居て、自らが我家の事しか考えられない状況ですが、努力していくべき事だと思います。
1-6	川内市	28	女	新しい顔、新しい声に寛大になることを堂々と言い放てるリーダー(男性)の存在。まずは、新市の部課長の方々に強いリーダーシップを望みます。

1-9	川内市	30	男	住民の声を聞くこと。あくまで行政主体ではなく住民主体で進めていく体制づくりが必要。自分は田舎出身であるが、田舎は近所の方々とふれあい、助け合いが自然にできている。そういった人と人とのふれあいが、大きな市にとっても必要なのでは。少くとも不便であってもいいと思う。自分は、不便だから幸せではないと思わない。
1-10	川内市	31	男	老若男女が同じ目標に向かって、手をとりあって進んでいくイメージがある。今の時代は個人主義すぎる。1人暮らし世帯を減らし、多人数家族を優遇するような施策が必要ではないか。魅力あるまちにするためには、外では手にはいらぬものがあるとか、日本一のものがある。実は、戦国村の鎧かぶとは全国シェアの70%、NHKの大河ドラマでも使われているということが知られていない。もっと自慢していいはずであり、わが市の中の日本一を捜すことが魅力あるまちにつながると思う。活気のあるまちとしては、やはりあいさつ。「新市あいさつ運動」を展開するのもおもしろいかもしれない。幸せを実感できるまちにするためには、自己表現できる場が必要。職場、人、もの、幸せは人によって多様化しているが、自然は誰にとってもいいものではないか。自然な公園の整備など。
1-12	川内市	29	男	住民と行政が一体となり、住民参画の街作り
1-13	川内市	41	男	子供を育てる環境と高齢者が安心して暮らせるまちづくり
1-17	川内市	51	男	地域自治の確立 取り残される不安を抱える市域周辺部の地域について自ら立つための財源、機能を持たせる。小学校区を対象に母体(町民会・PTA・消防・体協等々)の構成者に財(予算)、事業を任す制度を作る。
1-18	川内市	51	男	最上流口 川内高城温泉に浄化事業の導入 中流部 全住宅に浄化槽の導入 減農薬農業の導入 畜産し尿の排水汲取施設の導入 下流部 汽水域の再生保全 水産加工・養殖施設の排水処理施設の導入 取り組み 校区全体で取り組む事業として位置づけ、住民が事業を手がける。
1-19	川内市	51	男	広大な過疎地域で、楽しく暮らす工夫をすすめる。楽しく暮らす過疎地域はいつか楽しい暮らしにあこがれて人も集まる。交流の促進は、まず楽しく暮らす自分をつくることから始まる。
1-20	川内市	39	男	市外からの集客が必要 例えば寺山公園にハーブ園etcの整備をし、市街地等一望できる喫茶室を造れば、若者、カップル等のリピーターが増加するのではないかと。(ハーブティー各種揃え、地元の食材使用し、軽い食事などできたら)
1-22	川内市	48	男	合併後において、市民がお互い平等・公平であると自覚できる政策が必要である。特に近年は、権利は主張するが義務は負わない風潮がある。できるだけ多くの住民に合併に対して一役を担ってもらえるような機会を作ってはどうか。
1-23	川内市	43	男	合併後の条件としては、総人口は増えない。高齢化が進む、過疎化が進むことは確実である。"まちづくり"のイメージとしてプラスではないが、このマイナスイメージを逆手にとった政策、思考が必要となってくる。具体的には、一人でも多くの若者が地元で職を持てるような環境づくりや定年を迎えた世代の知恵、経験を活かせる場の創出等が考えられる。工夫次第では幸せは実感できるものだと思います。
1-26	川内市	45	男	情報公開の促進、住民の自主的なまちづくり事業の展開、その助成事業 住民の行政参画の促進
1-42	川内市	28	男	基本はマンパワーでないかと思えます。(人材!)市民の活動を支援していくための総合的な組織づくり(施設も含めて)が必要だと思えます。また、新市の組織にも様々な人材を広く取り込む仕組みが必要ではないかと思えます。民間の優れた人材を年齢制限など設けず、取りこむことが公務員組織の改善につながり、ひいては、上記設問のとおり目的を追求することができると思えます。
1-46	川内市	52	男	各市町村で今まで取り組んできた特色ある事業、施策については継続の方向で推進すべきです。
1-47	川内市	43	男	合併した市町村が協力しあい、協調していくことが大切である。
1-57	川内市	44	男	文化芸能のみならず、住民が望むコンサート等のイベント 気軽に利用できる活動の場や発表の場を設けることが必要。
1-58	川内市	29	男	住民同士の交流 (例えば、川内の祭りの実行委員会と他市町村のまつりの実行委員会同士飲み方をするなど試みを定期的に行って、より活気のあるものを作り上げていく。)
1-62	川内市	51	男	地域自治の熟練の度合いに応じ、行政の支援を重点化する。熟練している地域には、十分な資金と資材を重点的に配分する。

1-63	川内市	50	男	構成市町村の地域資源を活かし、地域の個性をさらに伸ばすとともに、新市としての一体感を醸成するために次の二つの方策を提言します。広域合併の懸念事項である周辺地域の過疎化、疲弊化を防止するためには、従来の市町村ごとに行われていたまちおこし策をさらに発展させ、他地域との競争意識をもった郷土愛意識をもちあげる必要がある。地域審議会等が組織され地域振興策が審議されるが、地域住民の主体的な地域づくり気運を醸成するために、ソフト事業に係る地域振興基金を設立する。基金の原資は、構成市町村の財政調整基金と減債基金の一定割合とし、その合計額から交付税措置の無い起債残高の保有比率に応じ調整比率を乗じた額を控除した残額を交付するものとする。原則、取り崩し基金とし、5年間で使い切りとするもの。地域住民が知恵を絞り基金の有効活用を図る事で、良い意味での地域ナショナリズムが鼓舞され全市的な地域活性化が期待できる。一方で、新しい市としての一体感を醸成を図るために何をすべきか非常に困難な課題である。まずは、新しい市の名称の下に新しいまちづくりの機運を醸成することも一つの方法として考えられるものの、恐らく旧市町村の目に見えない壁は数十年は取り除かれないのではないかと、古い意識の地域ナショナリズムが温存され地域ごとのセクト意識から抜け出せない懸念がある。従来の地域振興の差とはなんであったのかを考えると、それは経済の格差が主体であり、立派な施設、立派な道路、立派な家並みがあれば、つまり経済力のあるまちは栄えて見えていた。住民が真の幸せを実感できる魅力あるまちにするためには、この繁栄評価基準を縮小し、財政力の差や地域経済振興の束縛から逃れ、資本主義経済の原則の対極にある施策が必要なのではないか。その方策として、「地域通貨の創設」を提案したい。住民が必要とするサービスを貨幣で消費するのではなく、相互扶助、共生の精神でサービスに費やした時間に対する報酬を地域貨幣でやり取りする。かつては、「結い」という交換労務により利益を得ることができた。地域通貨の介在によりいわゆる「結い戻し」の時間価値と相対でない複数のサービスを得ることができる。地域通貨は貯め込むものではなく、流通すればするほど、サービスが循環し、住民の主体性のある真の幸せがもたらされることが期待できる。具体的な例としては、「薩摩結い」といった名称で地域通貨単位のコインを作り、流通範囲を新市の市域に限り流通させ、とりあえずは高齢者に一定額を配布し、老人福祉に関するサービスなどに活用すれば地域通貨を核にしたサービスのネットワークの構築により新市の市民の一体感を醸成に大きな期待が持てると確信します。
1-64	西薩衛生処理組合	52	男	行政面積が広く、また、多岐にわたり様々な事業展開がある中で、総バラ的にあれもこれも政策展開するのは実効性が薄い。よって、旧市町村の特性や生産物を特定して、集中投資する政策展開が必要である。
1-66	川内市	58	男	人口減少が進んでいるので、定住人口の増加は困難と思われるので、交流人口を増加できるまちづくりをめざす。
1-67	川内市	36	女	高齢者の集える場を多くする。(グランドゴルフ、温泉めぐり)ホームページなど様々な意見を交わしあう場をもちいろいろな意見を交換しあって反映していく。
1-69	川内市	53	男	公共図書館の充実 川内駅近くに新しく本館を造り、現図書館(川内、串木野)を分館として残す。又、他の町村の中央公民館の図書館も残し、使送を使って、近くの図書館施設で希望の本が借りられるようにする。移動図書館車についても、川内、串木野の2台の他に2台購入し甕島を含め全域を巡回できる体制とし、図書館サービスの向上を図る。
1-72	川内市	28	男	大きな市になっても充実した近隣住民のコミュニケーション
1-73	川内市	53	男	住民の心を豊かにするコミュニティづくり。地域のコミュニティを豊かにする人づくり、まちづくり。
1-74	川内市	48	男	対等合併方式であるが、川内市が中心となっていき周辺部も合併してよかったといえるように、共存共栄をモットーに施策を。教育、保健、福祉、自治活動の支援を。
1-77	川内市	46	男	地域コミュニティの充実 希薄になってきた公民館活動・PTA活動などの復活を通して心の通い合う公民館自治活動が展開され、人と人との交流が真に始まる社会づくり。
1-78	川内市	33	男	川内だけの集中を避けて、平等に発展できれば、他市町村の事(地理・文化・施設等々)をよく理解していないので広報などを徹底して欲しい。
1-80	川内市	33	女	失業者を減らす政策を考えること。
1-81	川内市	29	男	人口減少が進んでいるので、大企業の誘致や娯楽施設(遊園地、映画館等)寺山から市内に下りるロープウェイ設備、夜景や寺山全体の施設の利用増加に雄大な川内川を見ながら心を癒し、多くの家族等でも来客が期待できるのでは？たのシール全店舗加入し、利用者の特典を上げ駐車場整備と台数確保をして、消費者が来店しやすい状況をつくる。
1-84	川内市	28	男	暴力団追放
1-93	川内市	27	男	各地に温泉があるので、温泉を核とした健康タウン構想を構築して欲しい。例えば、アリーナに郡山町のような健康増進施設をつくれれば、医療費の削減に効果大だと考える。

1-94	川内市	30	女	斬新な政策
1-95	川内市	30	男	川内は小さな単位での地。縁関係を大切にしている為、転勤族等「よその」がなじみにくい。市役所の保補助機関と化している公民館を見直し、もう少し大きな単位の自治組織にして権限と予算面での配慮をして(小学校区から中学校区のような大きなもの)の特色づくりをさせる。住民に全体を見て考える目を養ってもらおう。
1-96	川内市	42	男	あいさつ、まずは市職員から。(これが悪いという印象を受けます。)
1-99	川内市	42	男	人と自然の調和のとれた町づくりに努めてもらいたい。川薩の豊かな自然(山・川・海)を休日家族で楽しめるような環境の保全と公共施設の充実に努めてほしい。
1-100	川内市	34	女	バリアフリーを生かした施設を工夫し、住民の交流を深める。人がたくさん集まるふれあい温泉を作る。(公園も隣接した)
1-102	川内市	36	男	川内港と串木野港の役割分担を明確にし、アジアおよび国内の海の玄関口となるようにする。将来を担う子供達が、郷土に誇りがもてるようにする。(郷土愛の育成)
1-104	川内市	41	男	地域住民が気軽に市街地に行けるようなコミュニティバスの運行。地域コミュニケーションの充実 住民主体による地域振興策の推進。生活基盤(インフラ)の整備(バリアフリー対策の推進等)
1-105	川内市	48	男	人が現在の生活圏を広げなければ、過疎地域はますます拡大する。また、旧市町村のルーツや史跡等を紹介しあい、お互いの文化を理解しあわなければひとつのまちとしての一体感は発生しないと思う。福祉やスポーツなどその地域が力を入れてきた分野がある。その質を落さないようにすることが大切なのではないだろうか。人が各地に出かけるようにすること(イベント等)も活気あるまちにつながるのではないだろうか。
2-2	串木野市	33	男	住民サイドの行政であってほしい、行政側がやって自己満足するのではなく住民の満足度！
2-4	串木野市	29	男	若者が残ることが出来る町。寄って来る町にしてほしい。
2-5	串木野市	47	男	企業を誘致して若者が働けるようにする。人情味が深く、ふれあいや連帯感のある地域づくり。
2-6	串木野市	26	男	中心になる都市をつくる。
2-9	串木野市	40	男	行政がしなければならぬことを明確に市民に示し、民間ができることは民間に業務委託を進めていく。市民ができること、市民として協力していただきたいことをより明確に示す。
2-10	串木野市	50代	男	各地で一村一品運動が起きている。これらを新市の各地域の運動に広げ、お互いに競い合い、良い方法は真似て運動の推進、一村の拡大化に図れば良い。数年前のテレビ番組で、ある田舎の高齢者の人達が数種類の木の葉や小枝を採取し、懐石料理の飾り付けをして出荷しているのを見たことがある。
2-15	串木野市	38	男	若者に魅力的な街づくりを第1とすることが大切。
2-18	串木野市	42	男	国道沿いの活気(活性化)
2-22	串木野市	55	男	従来、各々が取り組んできたテーマ(例えば串木野市の重点施策...5本の柱)をお互いに尊重し合い、時間をかけて精査、調整していくべきと考える。大きな町の自己主張(押しつけ)だけでなく、育んできた、育まれてきた環境・文化・歴史を相互理解し合えてこそ融和が生まれ上記テーマが形成されていくと思う。
2-23	串木野市	53	男	行政の原点は住民であり、またまちづくりを実践するのも住民であることから、住民の声を反映させるべき審議会等を設け、住民参画の行政を推進する必要がある。そして、住民の意識を活性化せる工夫が必要と考える。
2-24	串木野市	27	男	公務員の積極的な地域活動参加
2-25	串木野市	50	男	市町村から検討委員会のモニターを幅広く募集し検討させる。

2-26	串木野市	52	男	新市が一体になるには、構成市町村の状況把握が必要である。JA農協の合併後の対応状況を見ていると、職員数は減らし、直接的に市民とつながりがなくなっていることを思うと必然的にサービスの低下につながる事になる。単に財政的な面だけを考慮すると、同じ道をたどることになるので慎重に対応してほしい。
2-30	串木野市	35	男	地域内が自主的に考え、自主的な活動ができ、地域が一体となるような取り組み(住みよいまち・地域づくりを真剣に考え行動できるようなもの)
2-32	串木野市	44	男	少子化時代に入っているため、未来の子供達にふるさとで働ける環境づくり
2-33	串木野市	31	男	国道3号線沿いや串木野駅周辺にもっと人が集まるような建設や公園をつくるべき。公的施設(図書館・消防署・警察署など)国道沿いにあるべき。
2-38	串木野市	44	男	若い世代(未就学児、小・中学生を持つ親の世代)を聴取し、(アンケート等で)事業をやってほしい。今は行政の一方的な事業や施策で且つ自己満足しているのみで、市民は何一つ満足していない。
2-44	串木野市	53	男	合併により広域化するために、現在以上にきめ細かなサービスを行い、市民ひとりの顔が見える行政を推進する必要がある。
2-45	串木野市	52	男	職員が新しい市になった場合、2市4町3村の現状の把握が必要であり、現地研修など地理的、それぞれの市町村の住民の考え方など、今で...あるまちと考えても、表面だけで新しい計画、アイデアが実施計画とつながらない。合併して行くなかで、2市4町3村の新しい市をつくる前のそれぞれの市町村のすがたを知りたい。
2-47	串木野市	43	女	伝統文化は残し、新しいものは取り入れ、時代に沿った取り組みをする。
2-48	串木野市	59	男	開港による外国との貿易 合併することにより、人口、港数の増加により開港指定が容易で、後進国の豊富な資源輸入により豊かな町づくりに努める。
2-49	串木野市	46	男	今でも趣味やボランティア等、一生懸命がんばっていらっしゃる方がいます。そうした団体や内容の紹介を大きくとりあげて窓口を大きく広げては、あとリーダーの育成を図るべきでは。
2-50	串木野市	47	男	小さいな単位を大切に(公民館単位でまちづくりを考えるような)新しい市の中に一極集中化地域が発生することがないよう。
2-52	串木野市	37	女	多くの市民の声を聞けるようにする。
2-53	串木野市	52	男	住民とのコンセンサスを図ることが最も必要と思われる。
2-54	串木野市	26	男	何か集客できる施設(娯楽・総合運動公園等)の建設が必要であると思う。やはり、学校も週5日制になり、余暇が増えたが、その自由になった時間を有効的に楽しく過ごせる場所がないから。
2-57	串木野市	42	女	高齢者には扶助費等が多く使われているように感じるが、もっと幼児や子供達にも手厚い施策が必要だと思う。若い親が働きやすい環境を作って欲しい。(保育園、幼稚園、託児所、子ども病院)市内のすみずみまで行政の手が行き届くように声が届くように、市役所が身近でなければならない。そのためには、支所や出張所等を均等に置いて欲しい。各種の届や申請(住民が頻繁に利用するもの)を出す役所が住居地から近い所になればいい。商店街をもっと魅力のある通りにして、車を使わなくても出かけられ、帰りの心配もあまり必要ないようバス等の運行も定期的に便を増やして欲しい。
2-59	串木野市	51	男	地域、集落などの大小にかかわらず、住民の声、総意を充分にとりいれた町づくりを提案いたします。
2-60	串木野市	47	男	港湾を活かしたまち、スポーツの盛んなまち
2-63	串木野市	28	男	制度的なものも大切だが、それよりもむしろ人と人とのコミュニケーションを図ることが一番大事なのは、そのためには合併した新市において、元の町同志が離れていてもスポーツや文化活動を通じて盛んに交流を図ることが一番だと思う。
2-65	串木野市	42	女	年をとっても、若くても、健康者でも障害者でもやりがい、生きがいをもっていることが大切。これからは、住民参加でいろんな企画、事業が展開される必要があると思う。
2-67	串木野市	30	男	中心部外の整備を充実させる。支所機能の低下を防ぐ(行政サービスの低下防止) 市民意識の醸成
2-70	串木野市	27	男	住民の意見を主に大切にしていく。

2-71	串木野市	50	男	行政の考えで進めるのも一つの方法であるが、市民、民間のアイデアを提供できるシステムを設ける。合併しても縄張り意識、違業種的感覺が高い。また広範囲になるため、人が集い、語り合える場を設けることがまず大事。例えば、テーマを提言。
2-72	串木野市	28	男	地域の行事等においても、自分たちが子供の頃に比べ、子供達が大分減り、高齢者が多くなっている。「活気のあるまち」をつくるためには、やはり若い人を増やすことであり(定住化政策の促進)、高齢者の方々が「幸せを実感できるまち」にするためには、福祉施策のますますの充実が必要であると思う。
2-75	串木野市	38	女	”若者の力を活用出来る町” 又、若者達が遊べる場所も必要ではないか？集まる＝悪としない場所を作ってほしい
2-77	串木野市	41	女	幸せを実感できるまち、障害を問わず、人間誰もが安心して生活できるまち、どここの学校へも入学できるまち ドリームキャノピー付近の活気が減ってきているので、商工会議所の方々が中心になって、活気が再びおこる中心街になると魅力もでてくる。串木野駅構内を新しくかえる。待合所も含めて。
2-78	串木野市	54	女	行き届いた政策、中心だけでなく地方にも目を向け若者が活気あふれる町づくりをし、その中で老人も障害児も子供も一緒になり助け合える町づくり
2-79	串木野市	42	女	住民参画によるまちづくり 住民主体による健康づくりの推進
2-83	串木野市	29	女	若い人が街づくりに取り組むこと 市民が元気であること
2-87	串木野市	48	女	今までどおりに、皆さんの協力が必要だと思います。
2-92	串木野市	45	男	住民にとって”魅力””活気””幸せ”を実感できるのは、自分の住んでいる地域での生活環境がどうであるかということに因るものと考え。身近に、公共施設や商業、医療施設等があるということは大切な要因である。そういう意味で、現市役所の機能が地域住民の不利益とならないように十分配慮するべきであろう。
2-106	串木野市	50	男	合併したら市町村住民が交流、行末がないと住民の活気は出てこないのでは、そのために各地区(市町村)に独自の物施設あるいは、イベント等を行うようにする。各地区での特性を生かす。その為にそれぞれの助成を行う。例えば、串木野では港を生かした魚料理を食べさせる店を店主の方にお問い合わせ。その店舗改修費の資金助成として資金借入の利子をお一定助成する。
2-107	串木野市	50	男	まちづくりなどについても、今まで行政主導が多かったが、今後は時間をかけ住民の意見を求め、求めやすいような環境をつくる。地域の特性、特色があるはずがいつのまにか画一化されているように思う。その町々の色があると思うので、地域の方々に自分達のカラーで提言してもらい、それを推し進めるようにする。
2-108	串木野市	44	女	住民が自分のまちを好きになる事が大切。
2-111	串木野市	44	男	行政が全面に出すぎない。国や県の意向にとらわれるのではなく、住民の考えをいかにくみとるか。
2-112	串木野市	30	男	この質問は、今の串木野は「魅力もない」「活気のない」「幸せを実感できない」から新市ではこういうことのない標記のことを目指そうと言われるのでしょうか？僕は充分とは言いませんが、今の串木野で満足しているのですが。
2-114	串木野市	30	男	合併しても、少子高齢化はますます加速していくが、高齢者が生き生きと暮らせることが、下の世代へも波及し、まちを活気づかせると思う。高齢者クラブがあるが、それらに参加しない人達にもそれぞれの特技、経験を小中学校のクラブ活動や総合的な学習の時間等継続性のある形で教え、子供達もパソコン等新しいものを教えることができる体制をつくることで、よりコミュニケーションが深まり、高齢者の生きがいにもつながるのではないかとと思う。
2-116	串木野市	37	男	海、温泉、その他自然を活かしたPRを統一して行う。そこに住んでいる人がまず、活気にあふれ、幸せを実感できないといけない。それぞれの地域住民の意見、考え方を活かしたまちづくりも必要である。
2-118	串木野市	42	男	住民の声が反映されなくなるのではないかと皆心配しているようだ。それをフォローするシステムを。また基本となる地域住民による自治振興活動の推進を安易な補助事業の導入でなく、社会教育の一環として、職員の配置など削減する事なく充実を図る事が最も望まれているのではないだろうか。(他の分野については、行政コスト削減のため、人員の縮小等必要な事と考えるが)

2-122	串木野市	45	男	自分たちの日常生活の身の回りの出来事で楽しい事柄を探すことから始めると、それがほかの人やまちと違うのか同じなのか分けてみる。「海がある。山がある。刺身が食べられる。温泉に入れる。すばらしいことではないでしょうか。」つまり当事者たちが良いものだと思うものこそ、外から見ても魅力があるものだ。活気は人の多さで感じるものです。建物や車がたくさん並んでいても人がいなければ活気はないもので、働く場や活動の場こそ最も必要。また声の大きい元気な人間と、わくわくする環境を作るのが良い。幸せを実感するのは、個人の価値観に依存する部分が大いなので具体的にどんな施策が該当するかは一概には言えない。私としては、日常生活の安定が前提となって、「幸せ」について考えられるので、まず雇用対策が基本条件であり、その次には施設整備ではなくて、交流機会や社会参加の機会や場の提供が行政としてやるべきことと思います。つまりは「幸福感」は、能動的に個人が味わうものと思います。
2-124	串木野市	47	女	いくつかのものが集まるわけですが、ことここが集まって...というのではなく「いっしょくた」ことここが初めてひとつに成る そういう考えであってほしい。そしたら、この地区は住民サービスが良い、悪いという格差は出てこないと思う。
2-126	串木野市	31	女	お年寄りの知恵や技を伝えていく場(ものづくり講座・ふるさとの料理講座等)を設け活躍してもらう。自然を活かす「離れたくない」「帰ってきたい」「また訪れたい」「ここに住みたい」と思える、まちづくり、人づくり。老若男女、広く交流できる場(イベント、空き施設の利用)環境問題へのさらなる取り組み
2-127	串木野市	39	男	地元雇用に対する体制強化(若者が定着できるまちづくり) 諸委員会等への若者(学生、フリーター、無職、主婦等)委員の登用 公立高校を利用した単位制社会人講座の開設(通常授業時間への参加も含め、中途退学者、社会人、定年者等幅広く) 学生数減による高校の統廃合防止運動の一環として。
2-128	串木野市 市民生活課	26	女	地域が広範囲に広がっているため、住民が一体感を持てるようなソフト面での施策が必要だと思う。(住民間の交流等)また、地域の隅々まで公平に住民サービスが行き届くような配慮をしていかなければいけないと思う。
2-130	串木野市	35	男	住民の熱意で住民(市民)発議(合併に限らず)による市(自治体)の盛り上げを行う団体等への補助金の拡大(ヒトモノカネ情報の集約への協力)が出来る自治体であること、また職員を育成すること。
2-131	串木野市	31	男	「活気のあるまち」...20~30代の定住人口を増やす(雇用の確保、鹿児島市のベッタウン化)
2-132	串木野市	32	男	若者が残る様なまちづくり
2-133	串木野市	49	男	冠岳の自然と歴史を生かした観光 若者が夢と希望を持てる町づくり
2-136	串木野市	44	女	住民一人一人が何を望んでいるのかを調べ、お互いいかに話し合い譲り合いして、住みよい町にしてほしい。
2-138	串木野市	29	女	文化的なことが大切
2-142	串木野市	24	男	もっと若い人が住むようなまちにした方がよいと思う。
3-2	樋脇町	35	女	まちの色々な事業を行うにあたり必ず住民の意見を取り入れ、行政だけの考えでなく、住民の意に則した事業を展開する。住民同志で支え合い地域を活性化させるための住民グループを育てる。
3-5	樋脇町	23	女	合併したら住民の声が届きにくくなることやサービスが充分行き届かなくなること等考えられるので住民の声を聞くことが出来るような定期的な住民の方の集まりも必要になるのではないかと思います。
3-8	樋脇町	54	男	今住んでいる人々がその地域において相互交流の深まり、風通しの良い関係をもって心豊かにして暮らせる社会コミュニケーションの充実 汗をかくものが報われ、子育て、老後の生活が安心できる政策の充実 地域に密着した施設整備、民意を大切にすること
3-9	樋脇町	35	男	広く住民に届く行政(中心部のみでなく山間部も)
3-10	樋脇町	37	男	行事を少なくして自分達で考え選び行動できれば本物しか残らないと思う。
3-14	樋脇町	42	男	若者の雇用の場の充実と老後を安心して暮らせるまちづくりの為の政策

3-15	樋脇町	26	女	遠隔地にある人々が行政上の不便さを感じることをなく、サービス水準を高くし様々な技術、事務的發展により、広域行政上の空間距離が問題にならないような“まちづくり”を目指す。
3-16	樋脇町	23	女	住民がひとつになること
3-18	樋脇町	47	男	市がどれだけ地域住民と一緒にやれるかだと思う。
3-22	樋脇町	34	男	ハード事業は極力ひかえてソフト事業を中心に行政を進めることが大切であると思う。例：各種計画策定については公簿等により委員を選定しパブリックコメントが良いと思う。
3-26	樋脇町	44	男	高齢者と若者が交流しあえる環境づくり
3-27	樋脇町	45	男	地域の特性を生かした自主活動を推進するためには自治公民館組織の整理統合はしないでほしい。
3-32	樋脇町	55	男	行政サービスの商業化、多様可対応できる体制を作ること。合併によって管理的経費の削減等、行政の効率化を図ることによって住民に対する行政サービスの水準の確保につとめる。(役所の機能を高める工夫)
3-34	樋脇町	23	女	広域合併ともなると、まず職員数の減により住民の声が届くにくくなることも必至。また、今の支所もおそらくなくなると考えられる。となるとやはり行政サービスの不充実など地方の住民にとっては不満が絶えないだろう。住民の声が反映しやすい環境をつくり、様々な年齢層の住民が参加できる交流、イベントなどを行い住民同志のつながりを大切に出来るまちになると良いのではないだろうか。
3-35	樋脇町	49	男	民官一体となった各種事業への積極的な取り組み
3-36	樋脇町	56	男	観光と農業をリンクさせた振興策の確立 各般にわたり若きリーダーの育つ環境作り
3-37	樋脇町	25	男	不景気が長引くと治安が悪くなり、住民が安心して暮らせないのでは？ その為にも警察の増員などできないものだろうか？
3-40	樋脇町	49	男	お互いの気持ちを理解しあえる環境作り
3-41	樋脇町	35	女	広域行政になるので中心部から離れた地域からの声を聞き入れられるかが大切。それには役所(本庁)に直接伝えられるホットラインがあれば良い。
3-45	樋脇町	56	男	地域住民の融和政策を図り、新住民の意識統一に努める。
3-46	樋脇町	43	男	大人から子供まで楽しめる交流(スポーツチームの合宿、有名人の招待等)
3-47	樋脇町	55	男	若者が定住し経済的に安定した生活できるまちづくり
3-53	樋脇町	40	男	住民ひとりひとりが新市に誇りを持ち、不満のない新市。すなわち総合的であるが、産業に活力があり、収入が安定している。児童、高齢者等が安心して暮らせ、住環境が整っていることで、いずれが欠けても不満が出てくる。全てが大切。
3-56	樋脇町	53	男	2市4町4村合併が実現した場合、工業地、商業地、住居地、農業地、レジャー観光地等、色分けされると思いますが、それにより新市内での人口移動等も考えられ、新市の開発は進むものと思われますので、合併においては一方では人口が大きく増え、一方では減少するような2極化になることも考えられます。そこで新市においてはこの点も考慮していただければと思います。
3-57	樋脇町	45	男	思いやりのある人間関係を作るための生涯学習の推進 若者の働く場の確保(雇用対策)
3-58	樋脇町	22	女	「活気あるまち」にしていくためには多くの人々が交流することが大切だと思う。子供から大人まで年齢を問わずに利用できる施設やイベント会場、大型デパート 等、人と交流出来る場所や空間が必要では？
3-59	樋脇町	55	男	現段階で川内原発の廃止は考えられないため、この原発を活用し、利用することでまちづくりができないものでしょうか。
3-60	樋脇町	30	男	人づくり

3-62	樋脇町	31	男	他の市町村が実践していない特色ある取り組みが必要だと思うが、まず自分達で「まち」を作っていこうとする意思統一も必要だと思う。
3-63	樋脇町	22	男	住民の声が反映されるまちづくり
3-65	樋脇町	59	男	まちづくりの根源となる豊かな人情あふれる人づくりが何よりも大切だと思われる。温泉を利活用した憩いの場、また音楽などたのしめるような文化ホール的な施策で誰でもいつても心をいやすことの出来る場所等があれば、住む人々の活力にもなるのではないかと思う。
3-67	樋脇町	31	女	住民の声を反映させるまちづくり。行政主導権ではなく、住民主導権であるべき。
3-70	樋脇町	25	男	地域格差を生じさせないために広く住民の意見を聞ける取り組みが必要だと思う。住みやすい住宅の増加、安い家賃の住宅やバリアフリー住宅など。
3-71	樋脇町	28	女	合併したとき各市町村の特徴を活かした合併をしてほしい。
3-73	樋脇町	51	男	雇用の安定化と健康で住み良いまちづくり
3-76	樋脇町	39	男	緑(自然)と都市が融合した街づくり 公園の整備 自然を生かした都市計画 100年先を見通した都市計画
3-78	樋脇町	41	男	住民の融和 全市均一的な発展
3-79	樋脇町	34	男	各人の町を思う気持ちが大切。地域の自然を利用し、子供達を育てやすい環境づくりが必要である。
3-81	樋脇町	40	男	人と人の交流(都市型と農村部、旧町と町 など)若者が希望夢の持てる町
3-82	樋脇町	32	女	今まで各市町村で大事にしてきた祭り等大事にしてほしい。また、経済的なことにしても合併して不況になりすぎたり、ならないようにある一定のラインはキチンと決めて欲しい。
3-83	樋脇町	55	女	人々が助け合い協力しあう心で生活し、安心して毎日が過ごせるまちであるように(特にお年寄りの方々、子供達)
3-84	樋脇町	20	女	温泉を観光資源として活用し、年間を通じて人が来るようにする。(施設をつくる) 高齢者、子供のふれあいを大切にする(声かけをする。子供が高齢者の家を訪問する。高齢者が子供に昔の話を聞かせたり、遊びを教えたりする) 鹿児島ブランドに指定されるような農作物(レイシなど)を作る農家を増やす。また、山村留学などで若者を集め、次代の農家を育成する。(移り住んでもらう)
4-1	入来町	55	男	これまで、各市町村が力を入れてきたことで、より予算投入が出来れば、県内外へのアピール効果が大きいものに今後重点投資をするのも1つの考え方ではないかと思えます。
4-2	入来町		女	町花(ひまわり)をピスタパークだけでなく、向山公園や街道から見えるような空地にも咲いていたら・・・(幸運を招く色です)春は、花水木が咲き(花水木に関して問い合わせがあります)夏には、ひまわり、冬はきんかんを・・・それだけでも入来町の魅力ある町につながるのではないのでしょうか？
4-4	入来町	54	男	魅力ある町作りとしては、住民が皆一致して何事も行う場合に協力する事が大事である。
4-7	入来町	23	女	「魅力あるまち」「活気のあるまち」「幸せを実感できるまち」すべてにおいて大切なのは職員一人一人の心構えだと思う。合併することにより、自分の育ったまちから離れる場合もあると思うが、同じ1つの市として、誠意と愛着を持って仕事に対しても、住民の方々に対しても接していくことが必要だと思う。
4-8	入来町	50	女	固執(地域に)することなく、意見を出し合い、人事交流することにより(行政のみならず、企業においても)切磋琢磨することで活気が出るのでは？魅了あるまち、幸せを実感できるまちであるためには生活環境の充実であるので、行政の押しつけではなく住民の意見を(声を)聞く機会を増やす。
4-9	入来町	46	男	何をやるにしても、住民本位の施策でなければ飽きられてしまい、今までと何も変わらない。物に対する豊かさから心の豊かさへ転換する必要もある。(ハード整備からソフト面の充実へ)但し、住民に直接関係する生活道路、下水道整備は必要不可欠な面であり、住んでみて心地よい地域が創造できるのではと思う。雇用の場確保の意味から経済特別区の設置に努力する。

4-10	入来町	36	女	住民の意見を汲み取った、きめ細かな政策が大切だと思う。これから、この地域を担っていく若者(高校生ぐらいから)の考えを、反映した政策が、必要になると思うので、若者の考えは奇抜だからとか実現不可能だからと否定せず、新しい考えを取り入れていく姿勢が重要だと思う。新しい考えを取り入れることで、上記3つのまちづくりが実現するのではないのでしょうか？
5-1	東郷町	27	女	公営住宅はありますが、民間の賃貸住宅が少ないのは東郷町に住みたくても住めない人を増加させ、若い人達とその近辺に住まざるを得ないことに結びつくと思います。企業の誘致を含めて考えてもらえればと思います。
5-3	東郷町	44	男	住民が行政と共に創り上げ、また成し遂げる感動を与えることが大切。特に13万都市をもなれば一人一人の住民が新市の一員と実感してもらうことが大事ではないか。歴史は大切にしたい。郷土芸能など地域が大人、子供一体となって取り組む絶好の場であって、異年齢間の交流をはじめとしてひきつがれていくものである。旧市町村を中心とする支所機能にはこのような特徴があってよいのではないか。
5-4	東郷町	47	男	とにかく旧町村ごとに話し合いをさせてその結果をまとめ、新市に報告し、少しずつでも反映させていくことが大切であるので、そういった村づくり(話し合い)の場に役所の職員も積極的に参加させ、企画や農政等の職員が充分耳を傾け、少なくとも業務の参考にしていく姿勢が重要であると思う。
5-5	東郷町	46	女	大人がもっと町づくりに対して提言しなければならないのでは。行政まかせではなく住民が行政を動かす「自分たちの町づくり」の意識づけ。
5-7	東郷町	48	男	広域なまちになるので一つの市になり、住民が一市民であることを実感して一つの市のために力を合わせるようなまちづくり
6-1	祁答院町	44	男	若者が定住できるための職場の確保。周辺部や交通弱者にも気配りのあるキメ細かい行政サービス。農林水産業と商工業の調和のとれた振興方策
6-2	祁答院町	55	男	高齢者が地域でレクリエーション活動や世代間交流の行える「老人憩いの家」を新設し、ボランティア活動との連携を深めていく。(リーダー育成も含める)自然環境の美しさにより海山川を生かした健康的な活気あるまちづくり
6-3	祁答院町	48	男	異年齢の交流を盛んに行い、若者が高年者を思う心や家族愛を大切に育てる政策 高年者が若年者への愛情ある指導などによる「社会性に富んだ人づくり」が大切である。(隣の人が誰か知らないような社会)「縁側の心*縁側で近所の人とお茶のみ(会話)するような！」
6-5	祁答院町	39	男	都市部と農山漁村部の均衡ある発展及び交流が肝心。産業、商工業、農漁業の一体となったまちづくりを進める。対策として都市部と郡部を結ぶ交通体系の整備、地域通貨の導入、地場産業販売センターの建設等。また民間団体、ボランティア団体、NPO法人等と連携した街づくり及びこれらの人材育成も必要と考える。
6-6	祁答院町	51	男	住民の意見の取り入れ、住民が何を求めているかを把握し、新市のまちづくりに生かす。
6-11	祁答院町	24	女	文化施設の充実
6-17	祁答院町	32	男	各市町村の特色を最大限に生かした町づくりが大切だと思います。それぞれ違った方向で発展させていくべきだと思います。例えば、農業面、商業面、観光面など。
6-18	祁答院町	48	男	コミュニティ等の活用により新市での出来事を知らせる。
6-19	祁答院町	60	男	自然と文化溢れる学園都市づくり。既にある純心大学を活かして、農業や林業、水産業等を学べる産業大学、「原発」をプラスイメージに変える研究施設等を誘致する(新幹線や高速道路等交通アクセスの充実を活用して) 新市の中心部一極集中型のまちではなく、旧町村の特色をのこしてバランスのとれた発展を。
7-1	里村	48	女	高齢化の真っ只中、お年寄りにとって活気のあるスペース、笑顔のある「時間(とき)」を大切にしていってほしい。今、里にある「もやーど」精神を、ずっと大切にしていけば幸せな空間は、すでに作られていると思う。
7-2	里村	55	男	幸せを共有できること。 若者を中心としたまちづくり政策 高齢者に優しい思いやりのあるまちづくり、政策、社会教育、医療保険福祉の充実 若者と高齢者を昔の薩摩風の教育方針で結ぶ。

7-3	里村	52	男	合併前の各市町村への細かい配慮、思いやりがあってこそ新市への信頼度が増し新市がオラの町となり魅力ある町、活気ある町になるかと思います。 小さな事、細かい点の改善等、子ども・若者・高齢者等、それぞれの立場、視点に立ってとにかく話し合いの場を持ち、住民の意見に耳を傾けることだと思います。
7-5	里村	25	男	「合併後住民への福祉サービスが悪くなった。」との意見がでないよう留意すべき
7-11	里村	56	男	大都市に見られない近所等の声かけ、地域がひとつになれる福祉の村づくり
7-13	里村	38	女	人と人との和が一番大切 村外に出ている若い人達に安心して帰って来られるような職場や住宅を作してほしい
7-14	里村	32	男	新しい市の中の一つ一つの小さな地域同士のつながり
8-2	上甑村	49	男	住民主体のまちづくり(行政に頼らず住民自身が自分で考え、行動するまちづくり) 住民リーダーの育成 行政の適正な支援
8-3	上甑村	62	男	「県民自然レクリエーション村」の有効的活用、維持管理体制(周年活用) 地域特産品(魚介類、山菜、草木染)の開発、育成支援策 自然エネルギーの導入(風力、太陽熱) 福祉対策、環境整備、水産業の振興、企業導入による雇用等活力のある地域づくり
8-4	上甑村	60	男	今あるもの(山・海・文化・人の和)をもっと大切に、自分の新しい市の基礎づくりとして、キャッチフレーズのみこだわらず企画していくこと。そうすることで他の地域にない企画が出来てくるのでは。
8-5	上甑村	33	男	若人が働ける環境づくり 高齢者が安心できる環境づくり
8-9	上甑村	29	男	・若い世代を残すために住宅の整備やマリンスポーツ等を行ったりして活気あふれる村作りを行えたら良いと思う。 ・水産高校等を設立し、鹿児島市内からも甑島がどんな所なのか知ってもらえるような事業も良いのでは
8-11	上甑村	43	男	人的・物的な交流がたくさんあるまち
8-16	上甑村	32	男	福祉施策の充実(高齢化が進む中高齢者に対する各種施策等) 地場産業の育成 若者定着(Iターン、Uターン)等若者が定着するような施策 医療施策の充実(小児科等) 保育所等施設等の充実(女性の社会進出にはかかせない)
8-17	上甑村	35	男	機能全てを1ヶ所に集めるのではなく分散してもらいたい。施設等も民間に任せられるものは委託等で一任する(売却も視野に)離島が後回しでなく、公平に扱ってほしい。
8-19	上甑村	44	女	住民ひとりひとりが自分の住むまちの良さをしっかりと見つめ、郷土を愛し、ほこりを持つことが大切
9-2	下甑村	52	男	仕事があること。 経済的合理性に偏重した人員の合理化に反対する
9-4	下甑村	33	女	その場所では体験できないものは残しておかなければいけないと思う！人それぞれ幸せの感じ方は違うし、自分の過ごしやすい場所に移り住んでゆくものだと思う。便利さを追求するあまり、後では作ることでできないものを失わず、その良さを生かしたまちづくりをすることでその地域を愛する人々が集まり、活気・魅力のあるまちづくりができると思う。

9-5	下甌村	30	男	まちづくりとは、地域住民が何を望んでいるのかを把握しながら、要望実現へ努める事であると思う。 新しい市が誕生してもすぐにはどんなまちにすればいいかは分からないのが本音であるため、各市町村が各市町村を知る事から始め、その上でどういうまちにしたいかを検討すべきと思う。
9-7	下甌村	38	男	・新市独自の商品券(貨幣)を流通させ、活性化を図る。 ・海に面している利便性を考え海外との交流を図る ・海洋深層水と温泉をミックスしたセラピーを立ち上げ、人間回帰ゾーンの地域を選定し、福祉の増進を図る
10-2	鹿島村	51	男	活気あるまちづくりは、村民の意識の改革が第1条件であり、個々人の積極的な取り組みが必要であり、行政指導型である鹿島村では、村民との対話をもっとできれば良い。
10-5	鹿島村	41	女	こしがひとつになる藺牟田瀬戸架橋が実現すれば、一体感が生まれ、活気がでてくると思う。
11-9	川内地区消防組合	41	男	協調
11-55	川内地区消防組合	43	男	一昨年だったと思いますが、県の婦人会長が「後進に道を譲る」といって勇退されました。後進に道を譲った人は80歳過ぎ、道を譲られた人は70歳代後半でした。今年、自民党税調は5人程度の長老が権限を握っていることに対し、党の中から反発があると報道されていました。この「長老支配」は身近なところでも見受けられる気がします。長老から見れば50歳代、40歳代は「こにせ」であり、意見もなかなか聞き入れてもらえず、何を言っても無駄とか自分たちには関係ないといった消極的な考え方が生まれる要因でもある気がします。長老が悪いと言っているのではなく、その経験や知識には一目も二目も置くものですが、これは世代交代がスムーズに行かない気がします。そこで、新しい市ではスローガンとして「若者の主導のまちづくり」「あなたが主役のまちづくり」などを掲げ、70歳くらいを境に権限を手放し、後進に道を譲り、長老には大所高所から指導をいただくように働きかけることはできないでしょうか。主体的に自分たちの死のことを将来考えるようになれば、市は活性化し活力に満ちてくると思います。
11-65	川内地区消防組合	49	男	新市民としての認識を住民が持たなくては一体感は生まれません。各種イベントを計画し、住民による実行委員会を設け、実施する等したらどうか。
12-2	西薩衛生処理組合	53	男	環境整備推進による快適環境:ごみ問題と生活排水処理計画は、直接住民に係る問題であり、この課題を住民が認識することもだいじである。現在、それぞれに独自の環境対策の推進を図っていると思われるが、遠隔地を問わず推進を図ることが大事である。(集中地域・遠隔地を問わない環境整備推進)
12-5	西薩衛生処理組合	52	男	若者達が地元に残れる(就業場所の確保)まちづくりと金のかからない遊戯場
12-6	西薩衛生処理組合	46	男	市民と行政の一体化が最優先(官民一体が活力のある町づくりとなる。行政主導では活力が出ないのでは?)にし、市民参加型で納得した方向に進めていくこと(議員の考えがそのまま民意を反映してはない場合もある。)4年に1回位は、民意を聞く機会を設けるべきである。(たとえば、選挙前に市が考える。今後の方向や開発計画その他行政の主なものを、記載配布し選挙時に回収するなど)
12-11	西薩衛生処理組合	35	男	昔のように映画館を作ったり、霧島のみやまコンセルみたいな音楽専用の施設等他市にはないものを作ったらよいかと思う。原子力発電所は、立地給付金が入ってくるが、できれば中止し、他の収入を増やすものを住民よりアンケートを取り進めてほしい。
13-1	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	38	男	住民の意見を一番に官民一体になる事。
13-4	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	32	男	祭や地域・公民館対抗のスポーツ(ソフトボール・バレーボール・駅伝・運動会)に力を入れる為に、賞品や参加賞を豪華にしたり、新しい市長(?)などが一緒に参加したり、工夫するべき。

	合			
13-8	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	28	女	住民が安心して生活できる町にするために、事件・事故がないように心がける
17-1	甌島衛生管理組合	47	男	大きな市になると行政に対する住民の声が届きにくくなるので各支所において、各種団体、各年齢層の代表によるまちづくり委員会等を設置し、住民参加の行政を進める事。まちづくりは、人づくりを基本に地域住民の研修、留学等を実施し人材育成を図る事。
17-2	甌島衛生管理組合	42	男	若者層が地元で働ける環境を作ってほしい。若者の都会への流出が地方での少子化・高齢化を進める要因の一つになっている事を考えた時、地元で就労者が安心して働ける企業が増える事を希望する。しいては、都会からのUターンを促し、活気のあるまちになり、先述の問題も解決につながる一步ではないかと思う。
4	個別応募・川内市	31	女	まず、行政と人々との間に思いやりの気持ちを育むべき。逆の立場になって考える機会を作る。そして相互理解を図るよう、意見交換などの場を積極的にとる。出た意見が「絵に描いた餅」にならぬよう、行動力も必要
6	個別応募・川内市	35	男	人と人との関わりあいを大切にできる町になれたらいいと思います。
9	個別応募・川内市	4	女	新市となる各市町村の現状・課題及びめざしている将来像の把握とすり合せ。特に、共通するものの統一化。相反するものの調整。あるいは優先施策の検討。

その他(テーマ :新市のまちづくりの望ましい姿、イメージ、キャッチフレーズはどんなものでしょうか?)

	市町村名	年齢	性別	提言
1-3	川内市	41		小学生、中学生みたいですが、“あいさつ運動”とか声かけ運動はいかがでしょうか？(人としての基本を考えてみたいものです。)
1-4	川内市	29	女	新鮮
1-6	川内市	28	女	女声と男声の響き。共同参画
1-8	川内市	54	男	海や山に囲まれた新市になるので、両方をいれたキャッチフレーズが望ましい。(例えば、海と森の体系として水族館と森の動物園の設置)
1-9	川内市	30	男	子供とお年寄りなど人々が交流できる暖かいまちであってほしい。
1-10	川内市	31	男	キャッチフレーズとしては、「人・もの・文化を大切にする」など。あまりパツとしませんが、分かりやすい、誰でも覚えられるフレーズがいいと思う。
1-11	川内市	54	男	環境に配慮したまちづくり みどりの町づくり(山林の有効利用)
1-13	川内市	41	男	コンパクトなまちづくり(従来の市町村枠)と域間交流機能の強化及び素朴な自然の活用

1-14	川内市	29	女	“人に優しい”街 合併当初は必ずトラブルが起こりゴタゴタすると思うが、その時の対処も笑顔と真心で接すれば、大きな問題にはならないと思う。合併した職員間の意思統一と融合だと思う。行政は競争相手のいないサービス業だと思っている。それゆえにサービスが行き届かないし、何より大切なのは、人と人だと思う。
1-15	川内市			ここにしかないもの発見 発見希少価値
1-16	川内市	51	男	周辺が元気のあるまち 元気・健康
1-17	川内市	51	男	まわりとともに楽しく過ごすまち 生活(人生・子育て・自然共生) 現時点で生活している住民がこれからも生涯死ぬまで楽しく過ごすから まち 地域
1-18	川内市	51	男	水循環の確立したまち ウォーターフロントを延長でこれ程抱えたまちはない。
1-19	川内市	51	男	広大な過疎が自慢です。
1-37	川内市	58	男	人の和 (新市への意識、コミュニティ活動の重要性、小中生の意識変化) 心の和 (職員の融合、文化芸術を含む社会教育、過疎高齢化) 産業の和 (各市町村の産業を新市の産業として振興できる組織) 三つの和を中心
1-38	川内市	32	男	便利、快適な”田舎暮らし”
1-39	川内市	29	男	ハートフル 笑顔が似合うまち”清らかな自然とあふれる人情”
1-40	川内市	44	男	地域連携が図れるまち
1-42	川内市	28	男	勇ましさ(綱引き)、海(串木野港 川内港)、進取気風、川(川内川)、大自然(甑島)、原発、地下備、農業、(キンカン、フルーツ)、水産業、マグロ。人にやさしいまち 市。 海川山の自然を活用した観光産業の創出 港湾等を活かした産業振興施策の抜本的見直し
1-43	川内市	39	男	街(都会的な雰囲気)もあり、海も山もある。バランスのとれたまち。映画館などできないだろうか。
1-45	川内市	47	男	教育立地都市 市
1-46	川内市	52	男	「海」「川」「山」で楽しめるまちづくり
1-49	川内市	47	男	子供からお年寄りまで郷土を愛し、健康で明るく楽しく、ゆとりのある暮らしができるまちづくり。
1-57	川内市	44	男	「文化」「歴史」「川」「自然」
1-58	川内市	29	男	融和
1-60	川内市	42	男	「温泉と海 健康のまち」温泉療法と海洋療法の相乗効果
1-61	川内市	42	男	「美味・安心な食のまち」というイメージを定着させたい。
1-62	川内市	51	男	民活のまち 行政の直接関与する範囲を極限まで縮小する。その代わりに、民間地域に自主性を認める。
1-63	川内市	50	男	新市のシンボルとなるキャッチフレーズは新市の市民の一体感の醸成を図ることを主眼としたい。そのために、構成市町村を一つに束ねる象徴的な文字として結合、結婚、団結の「結」を揚げたい。相互扶助による住民参画を図るためにも先に述べた「結い」の精神と結びつけるとともに、地域通貨の単位呼称「薩摩結い」の流通と相俟って一体的なまちづくりを目指したい。キャッチフレーズ具体案『結いの邑(にいのくに) 』邑の定義は むら、さと、村落 くに、みやこ 解釈として、人がむらがりくつろぎ住む所の意味
1-65	川内市	46	男	医療、教育、福祉のまち
1-66	川内市	58	男	山・川・海をイメージして、四季の山と湖、年中楽しめる川、甑島までクルージングが楽しめる東シナ海をキャッチフレーズに考えてみたいです。

1-67	川内市	36	女	”温泉””バスケット”のまち
1-68	川内市	39	男	輝く 未来 親しむ人 うるおうまち
1-71	川内市	50	男	地域でお互いに支え合うふれあいのまち
1-72	川内市	28	男	1箇所に施設や商店街が集中せず幅広く展開したまち
1-73	川内市	53	男	南に開く 心と自然、豊かなまち
1-74	川内市	48	男	テーマ をベースに、昔串木野市が策定した昭和53年頃(しま・みなと・おか定住圏構想)の冊子も参考にすると、新市の発展の基軸が見えてくる。ツインシティー(目が2つあることが大事)、囲碁も目が2つあることで生きてくる。大きい・小さいではなく、生きた目が大事。
1-75	川内市	53	女	心豊かな健康福祉の街 自然を大切に作る街
1-77	川内市	46	男	地域が人を育む思いやりのあるまち
1-81	川内市	29	男	人情味温かい年中輝く川内市
1-82	川内市	25	男	シンプル ザ ベスト
1-83	川内市	28	男	新市が誕生しないとよくわからない。
1-85	川内市	28	男	川内川、新幹線を。
1-86	川内市	27	男	川内には川内川という大きな川があるので、川をキャッチフレーズにしてはいいのでは？
1-88	川内市	25	女	多くの人が川内市に集まってくるようなまち。
1-89	川内市	25	男	若者が集まる町づくり
1-92	川内市	29	男	川内市の将来都市像でもある 人:まち輝く「水景文化都市」川内をキャッチフレーズにみんなで進める市民参画のまちづくりを行っていきたくらいと思います。
1-93	川内市	27	男	健康づくり宣言都市 高齢者生き生き町づくり
1-94	川内市	30	女	「新幹線の通る便利で豊かなまち」というイメージなので、物質的だけでなく心から豊かになれるように！
1-99	川内市	42	男	人にやさしい町
1-100	川内市	34	女	グレート ナチュラル タウン
1-102	川内市	36	男	中国・韓国・東南アジアへの海路を用いた物流の玄関口。甌島の自然を生かし、長期滞在型観光地を構築
1-104	川内市	41	男	旧市町村の魅力、課題を十分理解した上に立つ「新たなまちづくり」の推進。未来へはばたく南九州の拠点都市 豊かな自然、文化資源そして、こころ優しい人々が暮らすまち
1-105	川内市	48	男	海・山・川など自然が豊かな広域の新市であるので、観光や工業・農林水産・商業などその特徴をアピールできる市町村があると考え。各市町村のテーマ を参考に決定してはどうだろうか。公募も住民の参画と一体化に役立つだろう。
2-6	串木野市	26	男	明るく、都市的なイメージ
2-10	串木野市	50代	男	お互いの町を知り、みんなで生かそう新市のまちづくり

2-14	串木野市	26	男	活力あふれる豊かな都市づくり
2-15	串木野市	38	男	自然とふれあえる街
2-20	串木野市	58	男	優位的な地理条件から、串木野新港の機能を発揮、国際大型流通港としての都市づくり。海、山の資源を活用する事業の促進
2-22	串木野市	55	男	しま・うみ・みなと・市街地とそれにつながる癒しの里を同一市となる今後はよりクローズアップできる。 原発に従来にも増したクリーンイメージ = 誠を求める。
2-23	串木野市	53	男	自然と調和のとれた都市づくりを希望します。港湾都市・教育文化都市・自然観光都市
2-26	串木野市	52	男	「海あり、川あり、山あり」自然あふれるまちであると思うので、政策面で諸構想を描いて、確実に実施して欲しい。
2-30	串木野市	35	男	自主性を重んずる積極的な地域づくり 住みよいまちづくり(安全で、安心して、効率的で、地域性のある)
2-38	串木野市	44	男	特にイメージやキャッチフレーズなどは必要ない。とにかく、市民の声をフルに活かした市政であってほしい。
2-43	串木野市	34	男	このところのマグロを活用したイメージづくりを展開させたい。
2-45	串木野市	52	男	すてきな町、きれいな町、自然を愛し、むかしを守る町
2-46	串木野市	44	女	福祉に力をいれて「福祉の町」
2-47	串木野市	43	女	明るく豊かな新社会
2-50	串木野市	47	男	住環境重視のまちづくりを。観光等にあまり力を入れすぎても如何かと思う。全ての施策を”循環”の思想を入れて組み立てるべき(リサイクルのまち)
2-51	串木野市	39	男	「子供たちの輝く未来を創造する 市」
2-53	串木野市	52	男	観光資源を秘めた秘境甕島を最大限にPRし、「しま、みなと、おか、温泉」を生かしたキャッチフレーズを目指して頂きたい。
2-54	串木野市	26	男	海や山を活かした町づくり
2-55	串木野市	51	男	観光客が訪れてみたいまちは、地域の住民が住んでみたいまち
2-56	串木野市	39	男	自然環境にやさしい港湾都市(エコロジーポートシティ)
2-57	串木野市	42	女	仲良く連携して一つのものを取り組めること 各職種、各年齢層、各地区の人達の意見を反映させたまちづくり 人口が5万人くらいが理想、面積も広すぎる気がする。みんなの笑顔がこぼれる町
2-58	串木野市	45	男	安心して子育てができる文教都市
2-60	串木野市	47	男	若者に魅力のあるまちづくり、医療や福祉が充実したまちづくり
2-61	串木野市	39	男	豊かな自然と活気あふれる快適なまち(都市計画マスタープラン基本理念)
2-62	串木野市	38	男	住民にやさしい町
2-64	串木野市	32	男	自然と活力あふれる快適な都市
2-65	串木野市	42	女	笑顔 いきいき 市
2-67	串木野市	30	男	「歴史的財産」を活用したまちづくり 「行政・民間・地域」のトリニティー ライフスタイルの創造(多天然自然を生かしたまちづくり)

2-69	串木野市	57	男	住んで良い 訪れて良い 歴史と文化の街
2-74	串木野市	32	男	国際交流のまち 市 自然あふれる西さつま中核都市
2-79	串木野市	42	女	地域の特色を生かしたまちづくり
2-83	串木野市	29	女	人に優しい街、人が優しい街
2-89	串木野市	46	男	住民にやさしい街(お年寄りや身体障害者等)
2-93	串木野市		女	新市の名が有名になったらすばらしい!"みんなと仲良く自分にも優しく"の新市です。
2-95	串木野市	46	女	片寄りのない開発
2-99	串木野市	46	女	自然を大事にしたまちづくり 未来に残せるまちづくり 未来に残せるまちづくり
2-102	串木野市	35	女	明るく元気なまち 心豊かなまち
2-104	串木野市	44	男	遊びは海洋性レジャーとゴルフで疲れは温泉でいやす街 海と山で遊び、温泉で体と心をリフレッシュする街さつま市
2-106	串木野市	50	男	海に面し海に囲まれ、山畑田に囲まれた豊富は温泉があることから自然をキャッチフレーズにする。「しんせん・自然・ゆらくえんまち」新鮮(さかな・農林作物等)自然(海、山)ゆ(温泉のまち)らくえん(楽しく暮らせるところ)
2-108	串木野市	44	女	健康で住みやすいまち
2-113	串木野市	39	男	若者の定着できる場(働く場、住む場、遊ぶ場)子供、高齢者、障害者が明るく暮らせる街
2-115	串木野市	35	男	県都 鹿児島市には負けないIT国際都市
2-116	串木野市	37	男	国際交流という観点から 中国の玄関 市
2-117	串木野市	42	男	心やすらく、環境、交流都市
2-118	串木野市	42	男	エネルギー、光 火力発電、原子力発電、地下備蓄基地、温泉など他地域にないものがあるので、エネルギーを全面に出して特に太陽電池、燃料電池などクリーンエネルギーに積極的に取り組んではいかがでしょうか。青・藍...空、川、海 緑あふれる自然、山 赤...東シナ海に沈む太陽、エネルギーの火 橙...特産の柑橘類 黄...光輝く温暖な地 紫...山岳仏教、ぶどう、など 日本近代化の基となった薩摩藩留学生渡欧の地、霊峰冠岳からさす光は文化の発祥となり、世界に視野を広げる港湾など色々考えていくと、光、エネルギーをコンセプトにすれば当地の特色がだせるのかなと思う。
2-119	串木野市	53	男	「東中国海にはばたく都市」をキャッチフレーズに、活力ある魅力的な都市に発展していくことを望むところである。申すまでもなく、川西薩地域は、東中国海(東シナ海)に面し、人口13億の中国又東南アジアとの交易圏づくりに優位的な地理的条件にあり、川内港、串木野新港の機能を十分に発揮し、国際大型物流港を中心とした都市づくりをイメージするところである。
2-122	串木野市	45	男	海のかがやき、山のたのもしさ、川のゆたかさが市民をつつむ西薩中核都市 海の幸、山の幸を川で結ぶ快適都市 人に開け、海外に開け、未来に開けた拠点都市 市
2-123	串木野市	30	男	シルバータウン。老人が活きる街。懐かしさを憶える街。懐古都市。人口規模は県内2位でも第2の鹿児島市を目指す必要はない。(同じ分野ではどうやっても鹿児島には勝てないし、新鮮味に欠けるし、後発は苦しい。)若者は鹿児島市。老人は西川薩市。
2-126	串木野市	31	女	皆が愛着を持ち、未来へ希望を持てるようなまち
2-127	串木野市	39	男	新市町村の連携のとれるまちづくり。「我町」だけではダメ。新市間の連携を密に。

2-130	串木野市	35	男	市民も創る新しい我がまち～行政主体でなく市民主導の政策実現を目指して～
2-131	串木野市	31	男	県内第2の都市(少なくとも国分・隼人を上回る何か)現状では国分・隼人周辺がそのイメージをもたれていると思う。無理やりイメージをつくらない
2-132	串木野市	32	男	串木野市が中心になり、活気あるまちづくり
2-134	串木野市	28	男	若い人が増える様なまちにする
2-136	串木野市	44	女	明るくてあたたかい町 心いやされる町
2-137	串木野市	37	女	明るい元気な街
2-138	串木野市	29	女	助け合いのまちづくり
3-1	樋脇町	27	女	人に優しいまち
3-2	樋脇町	35	女	湯ったりあたたかい住み良いまち
3-3	樋脇町	49	女	豊かな「人」「自然」「温泉」あふれる「笑顔」「文化」「光」
3-4	樋脇町	54	男	健康で生き生きと暮らせるまち(食品・就業・余暇利用施設)
3-5	樋脇町	23	女	住民サービスが充分に行き届くこと
3-8	樋脇町	54	男	海、川、自然、環境を育み、人にやさしいまち 母なる川(川内川を生かす)
3-9	樋脇町	35	男	海山そして温泉(観光のみでなく釣り、ハイキング等年間を通し遊びに行きたい町)
3-10	樋脇町	37	男	10年後を見据えた自力をつけられるまちづくり
3-11	樋脇町	26	男	やさしくて力持ち
3-14	樋脇町	42	男	「人と自然」がふれあうまちづくり
3-15	樋脇町	26	女	(望ましい姿)住民サービス水準はより高く、各分野における負担はより低くなるよう
3-19	樋脇町	25	男	家族で楽しく遊べる街づくり
3-20	樋脇町	25	男	若い人もお年寄りも住みやすく生きがいを感じる街
3-22	樋脇町	34	男	行政主導型でなく住民主導型が望ましい
3-24	樋脇町	31	男	お金で買える幸福よりこの町で暮らせる幸福
3-25	樋脇町	36	男	明るい町
3-26	樋脇町	44	男	健康的なイメージを全面に表すものが良い。
3-27	樋脇町	45	男	豊かな自然と人情あふれるまちづくり
3-28	樋脇町	46	男	制約されない自由な発想が取り入れられる町。住民が明るく一人一人の個性が引き出せる町。何事にも前向きで常に発展がある町。「めざせ 輝く 自由都市」
3-29	樋脇町	39	女	ひとと情報が常に行き交ういきいきとしたまち

3-31	樋脇町	25	男	子供から大人、老人までできるスポーツ施設をつくり、他の市からも使用してもらえるようにスポーツの盛んな町(市)が望ましい。
3-32	樋脇町	55	男	自分のまちの名前が消えるのは寂しく思うが、全国から公募し21世紀にふさわしい前途を感じさせるものとして欲しい。
3-35	樋脇町	49	男	新市の中心部と遠方との格差を少しでも少なくする。
3-36	樋脇町	56	男	湯の香ただよう故郷
3-37	樋脇町	25	男	望ましい姿(緑豊か) イメージ(ゴミなどが落ちていない) キャッチフレーズ(次世代の人々の為へ)
3-40	樋脇町	49	男	これからの枠組みで自然と生まれるものであると思われた。
3-46	樋脇町	43	男	明るく活力あるもの
3-51	樋脇町	43	男	自然いっぱい躍動する町未来に羽ばたけ 市
3-53	樋脇町	40	男	住民が満足して暮らせるまち
3-54	樋脇町	30	男	構成市町村その町へ行ってもゴミ1つないようなクリーンな町を印象づけられるような町の推進
3-57	樋脇町	45	男	公害のない、安全で文化的な生活の出来るまちづくりを進めていくことが望ましい。
3-60	樋脇町	30	男	国内外の交流人口が増加する国際都市
3-62	樋脇町	31	男	合併する市町村の現在のそれぞれのイメージを大切にしながら、まちづくりに活かしてもらいたい。
3-63	樋脇町	22	男	自然の中にある都市
3-64	樋脇町	37	男	躍進、飛躍、ゆとり、明るい クリーン (街、行政、自然)
3-65	樋脇町	59	男	地域差別のない子供から大人まで楽しく暮らせるまちづくりのためには、川内国際交流センターを核として県内は基より県外並びに国外との交流を図り、国際都市を目指す。田園都市、国際都市をイメージした都市を目指した政策をとってもらいたい。
3-67	樋脇町	31	女	主人公は住民一人一人。
3-69	樋脇町	45	男	川幸、山幸、海幸のまち
3-76	樋脇町	39	男	未来を見つめる都市 市
3-77	樋脇町	26	女	手と手を取りあって新しい未来へ
3-78	樋脇町	41	男	「前へ」
3-80	樋脇町	26	男	「人を大事に」
3-82	樋脇町	32	女	みんな幸せ かがやく街
3-84	樋脇町	20	女	交通の便が良く、福祉の充実したまち。人の集まるまち。鹿児島島の西の玄関口
4-1	入来町	55	男	島・港・岡をよりイメージアップしたキャッチフレーズができたらと思います。
4-2	入来町		女	川内・串木野を恐らく中心にスタートするのでは?・・・と思いますが、小さな町、村が遅れをとらないように行政の皆様がんばって下さい!!人と人とのふれ合い、出会いを大切に。人口が多くなるだけでなく、一人の人間としての、心も豊かに健康第一に!!

4-3	入来町	31	男	キャッチフレーズ「海の幸も山の幸も笑顔もいっぱい 市」基本的には、今とそれほど変わらない生活が望ましい。自然を保存しながら開発を進めてほしい。
4-4	入来町	54	男	イメージ、キャッチフレーズに関しては地場の特産物に関するものが良いと思う。
4-8	入来町	50	女	女性が元気で明るいまち。雇用の場や女性の声が反映される機会を増やす
4-9	入来町	46	男	海、山、川なのでもあるが、それが焦点をぼかしている面もある。アジアの拠点中国と近接した地の利を生かしたまちづくり(アジアの玄関口)
4-11	入来町	46	男	海、山、川の自然を生かした町づくり
5-5	東郷町	46	女	住民の声を反映したまちづくり。大きな市となっても小さな場所での出来事(特にいい事)など周知したり、切り捨てにならないまちづくりになってほしい
5-6	東郷町	28	男	それぞれが特色を出してほしい。
5-7	東郷町	48	男	山、川、海のある自然豊かで人間味あるまち
6-1	祁答院町	44	男	健康づくりと福祉の充実したまちづくり 特色ある観光資源を活用したまちづくり
6-2	祁答院町	55	男	自然環境を大切に、高齢者にやさしいまちづくりを。 子供達に夢の持てる明るいイメージのまちづくりを。
6-3	祁答院町	48	男	「ピープル 西薩摩」 人づくり 西薩摩市 「福祉政策」が充実したまちづくり ヘルシースマイルプラン(健康のための政策) ハピネススマイルプラン(幸福を感じる政策)
6-5	祁答院町	39	男	海、山、川、湖など自然に恵まれた地域性を活かし、食糧や観光の発信基地としての位置づけ 都市機能の充実を図り、郊外では住宅地の整備を進め、地産地消の体系を構築し、農漁業とバランスとれたまちづくり
6-8	祁答院町	47	男	住民の声による健全で幸せな町づくり
6-10	祁答院町	34	男	山、川、海、新幹線、港
6-11	祁答院町	24	女	この町に住んで良かったと思えるようなまち
6-15	祁答院町	49	男	川内川を中心とした田園地帯及び甌島を中心とした東シナ海を取り入れたイメージ
6-16	祁答院町	30	男	若者が定着するようなまちづくり(雇用関係等)
6-17	祁答院町	32	男	一つの市で「海も山も温泉も楽しめる」ことを全面に出したイメージはどうでしょうか。
6-18	祁答院町	48	男	港の活用。アジア交流の地。
6-19	祁答院町	60	男	川内川や東シナ海など豊かな自然をイメージさせるまちづくり。 緑溢れる町並みづくり、旧市町村の町木・町花を街路樹に活用した道路整備。
6-20	祁答院町	48	男	新幹線の開通にちなみ、地域を結び早い行政、安全な町。
7-2	里村	55	男	県内で2番目の大きさである、東シナ海に面している、川内川。 エネルギー基地、日本有数の漁場。 東シナ海を中心とした国際交流都市への脱皮
7-4	里村	46	男	この街にまかせてみませんか 自然(海・山・川・島) 産業(農林・水産業・鉱工業・運輸(港)) 人(福祉・交流・情)

7-10	里村	52	男	住民のモラルを向上してもらい、美しい町づくりをめざす。(ポイ捨て条例等を作らないでも美しい町)
7-15	里村	32	男	自然と共存出来るまちづくり(川、海、温泉)
8-1	上甕村	59	男	「賑わいと癒しのまち」 10万都市の賑わいと温泉や島の自然を活用したイメージ
8-2	上甕村	49	男	自然とマッチしたまちづくり
8-3	上甕村	62	男	離島、自然環境、観光を活かした地域づくり 「活力とやすらぎのある地域づくり」のキャッチフレーズ
8-4	上甕村	60	男	「文化・自然・食の香り豊かな」町 「人・物・自然豊かな」町
8-5	上甕村	33	男	活気のある上甕村
8-6	上甕村	59	男	個々の心の触れ合いを大切にの意をこめて”ハートフル ”(新しい市)
8-7	上甕村	35	男	すべての都市が、ミニ東京をめざしたまちづくりを行い、まちに特色がなくなっているように思う。合併後も、現在の川内市に一極集中してしまうのではなく、各旧町村が個性を生かしたまちを作っていくべきではないか。
8-9	上甕村	29	男	各市町村が力を合わせ平等に対応できるような姿が望ましいと思う。
8-11	上甕村	43	男	観光都市 市 鹿児島県(日本)を凝縮した街 市
8-12	上甕村	46	男	海・川・山等自然の恵みを活かしたまちづくり
8-14	上甕村	47	男	離島と本土、お互いの有効利用
8-16	上甕村	32	男	今回の広域合併でのイメージとして、山、海等自然豊かな町村等も含むことから、自然を大切に、人間み豊かな高齢者から若者まで調和のとれた全国に例をみない新市の誕生
8-17	上甕村	35	男	すみやすい市、一人一人が存在感を実感できる市
9-1	下甕村	40	男	色々な水(河・海・温泉・深層水 etc)を新市になったら体験ができる。例えば、川内(川内川)、串木野(水産・砂浜)、入来、東郷、祁答院(温泉)、甕島(温泉・深層水)他 「水体験！心体ともリフレッシュ」
9-4	下甕村	33	女	住民主体の市 自然、環境など含め清水(クリーンウォーターシティ)
9-5	下甕村	30	男	いつでもどこでも住民に同じサービスを提供できる事が望ましい姿である。イメージは川・温泉・海
9-7	下甕村	38	男	海、川、山を利用した人間回帰
10-1	鹿島村	51	男	将来、益々予測される少子高齢化に充分対応するため、市街地中心のサービス体制を取ることなく、社会的資源も含め、マンパワー等全分野にわたって、均衡の取れた地域づくりに努める。
11-2	川内地区消防組合	39	男	週末・休日等に人が集まってくるようなまち

11-3	川内地区消防組合	36	男	それぞれのまちの特色を活かしたまちづくりをし、海と山・川自然と融合できる進歩あるまち。海・山・川そして人、みんな温っか
11-12	川内地区消防組合	26	男	人が集まりたくなるような町
11-13	川内地区消防組合	24	男	人が集まりたくなるような町
11-22	川内地区消防組合	45	男	開放的で「自由と伝統と斬新さが混在したまち」として「大自然が息づき住民が信じ合える街」というキャッチフレーズはどうか 過去・現在にかけての悪いイメージの川内ガラッパは払拭していかなければならないと思います。
11-25	川内地区消防組合	37	男	川と自然をモチーフにしたまち
11-29	川内地区消防組合	48	男	「魅力あるまち」「活気あるまち」
11-30	川内地区消防組合	52	男	新幹線と西回り高速道路を自然と調和させる キャッチフレーズはやっぱり「ウォーターフロント」「水のまち」
11-45	川内地区消防組合	38	男	川内は昔から水がきれいであるといわれてきたが、そのイメージが最近全く感じられないので民間施設であるが百次町のノー無の水を宣伝し、それにちなんだイベントを開催し、川内＝水のまちを強調したい。
11-46	川内地区消防組合	39	男	エネルギーのまち(原子力以外にも風力発電水力発電等にも目を向ける)
11-56	川内地区消防組合	40	男	水、緑、温泉のふるさと
11-57	川内地区消防組合	42	男	水のまち川内を活かしたもの
11-58	川内地区消防組合			待望の新幹線開通により、客を持ってこられるか、持っていかれるか大きな瀬戸際です。駅周辺を整備し、ここが川内の顔と位置づけ、温泉、魅力ある住環境をうたい、鹿児島市の企業の誘致及びベッタウン化を図り、人口増を目指す。
11-63	川内地区消防組合	54	男	海、川、池、山
11-64	川内地区消防組合	40	男	海、山、川の自然に恵まれた、住む人が癒されるまち
11-66	川内地区消防組合	41	男	広大な海と川をキャッチフレーズにしたい。
11-69	川内地区消防組合	28	男	明るくキレイな市
11-75	川内地区消防組合	44	男	海・川・山・人・街・等自然と一体化した地域の特色を全面に出し、明るく住みよいそして、外部から一度(何度も)は訪れてみたいと思えるようなまちづくり。
11-78	川内地区消防組合	41	男	今まで各市町村がかかげていたイメージ等を大切に、一つの市として取り組んで行ったらいかがかと思う。
11-86	川内地区消防組合	55	男	海・山・川・温泉をいかした町づくり

11-87	川内地区消 防組合	22	男	リフレッシュ
11-88	川内地区消 防組合	23	男	川内川, 五反田川, 東シナ海などから「水のまち」が良いと思います。
11-89	川内地区消 防組合	29	男	新市には美しい海や山があります。そのイメージを前面に押し出してシンプルにズバリ, 「大自然」をキャッチフレーズにしては
11-91	川内地区消 防組合	25	男	福祉が充実している
11-92	川内地区消 防組合	21	男	ゴミのない町, 災害に強い町づくり
11-93	川内地区消 防組合	40	男	各地域に応じて, 夢のある町づくりにしてほしい
11-94	川内地区消 防組合	38	男	年代性別をとわず, 楽しめる地域の開拓
12-4	西薩衛生処 理組合	52	男	大綱引きをキャッチフレーズしてイメージアップしては?
12-5	西薩衛生処 理組合	52	男	大綱かガラッパかどちらかに統一してもらいたい
12-6	西薩衛生処 理組合	46	男	山、川、海、島ないでもあつど(なんでもござれ) 新市名称案…のびる市
12-8	西薩衛生処 理組合	50	男	新幹線をイメージし、「太陽」と「温泉」をキャッチフレーズにしては?
12-10	西薩衛生処 理組合	43	男	広大な山々から西海を望むまち。新市名称(西雄市)
12-11	西薩衛生処 理組合	35	男	イメージアップしようとしても、原発のある市というイメージが抜けないのでは。
13-1	串木野市・市 来町・東市来 町 衛生処理組 合	38	男	終わりのない街
13-3	串木野市・市 来町・東市来 町 衛生処理組 合	45	男	住民の環境に配慮した安心、快適な暮らしのできる町。

13-6	串木野市・市来町・東市来町 衛生処理組合	39	男	現状では、具体的に内容が分からない為、コメントできない。
13-7	串木野市・市来町・東市来町 衛生処理組合	40	女	子どもからお年寄りまで誰にでも愛される町。
13-8	串木野市・市来町・東市来町 衛生処理組合	28	女	緑美しく住みやすい町
17-1	甕島衛生管理組合	47	男	活力に満ちたしま、おか、みなとの東シナ産業都市
2	個別応募・串木野市		男	東支那海にそびえる都市・・・合併により遠くはなれた町の集まりとなり行政も広域化となりまとまりが当面の課題かと心配する。行政の中心頭をどこに置くか現在は不明であるが、広域を常に把握できる「新都市組織体制計画」の整備、「マスタープラン」の策定が重要と考える。基本的には行政、財政拠点は現在の所それぞれの市、町、村に規模は縮小された形で存在することと思うが、行政機関の連携を密にし、物事の議事進行がスムーズに進む様に力点を置くこと。又、住民はなかなか我が町を大事にする心、他を排斥する精神が培われている。これを徐々に融和させ、人口約13万人が新市として実力を発揮させる統一組織に造り上げる為には頻繁な交流会を実施することが重要かと提案したい。具体的にはその地の特徴を生かした施設、長年繰り返されている催場、祭事等を充分活用することか。
4	個別応募・川内市	31	女	山、川、海とつながる自然と歴史
6	個別応募・川内市	35	男	明るい町、活気ある町、元気をお互いに共存できる町づくり
9	個別応募・川内市	4	女	「海・山・川バラエティに富んだ豊かな自然」ではインパクトが小さいので、「水景」を使いたい。新幹線、西回り自動車道、情報通信等の「スピード」も強調できる。
10	個別応募・川内市	28	男	もっともっと川内

その他(テーマ : その他、期待するまちづくりの政策等自由なご提言(こんなまちになってほしい、こうあってほしい、子どもたちのためにこんなことをしてほしいなど))

	市町村名	年齢	性別	提言
1-3	川内市	41		この頃の子供たちの行動に対し、声をかけられる大人であってほしい。まずは、あいさつ、何もなくてもあいさつに答えられる子どもは、良いと考えられる。大人から声をかけられたらすばらしいのではないのでしょうか。しかし、その大人が「なぜ、自分がしないといけないか？あいさつは子どもからするものだ！」と思っていたら無理ですね。

1-9	川内市	30	男	現在の苦しい財政状況を住民に分かりやすく説明することが必要。それを踏まえた上で、本当に自分達に何が必要なのか考えてくることが必要。道路や大型施設を造ることで、便利になるかもしれないがそれが真に住みよいまち、幸せを実感できるまちなのか。これからの時代を担う子供達に何を残せばいいのか考えてほしい。ハードよりもソフト重視。もっと子供とお年寄りのために金をかけるべき、市民の方がつづる自然の空間がほしい。
1-10	川内市	31	男	子供達のためには、市街地に託児所を設けるとか、駅に託児所を設けるなど。(これは定住人口の増加につながる施策になると思う。よそから転入し、定住する意欲のある方には市営住宅等を優先し、託児所にも優先して預けられるようにする。)雨の日に遊べる場所を開放するとか、サンアリーナの武道館でもいい。ふれあいドームでもいいし、無料で開放する。そこで、育児相談でもできればなおベスト。こんなまちになってほしいと言うところでは、やはりもっと人がある、活気がある街になってほしい。アーケードが寂しすぎる。住民が願っている施設があるはず。遊ぶところがないなど、もっと住民の意見をすいあげる組織が必要である。あと、古きものを大切にしながらも、新しいものを取り入れていくことが大切だと思う。きれいなものばかり、市の施設でつくっても趣がなく愛着がわからない。
1-11	川内市	54	男	紫尾山系、冠岳(西岳)、弁財天山(H=518m)の登山道及び遊歩道の整備。大学のある都市(総合大学の誘致)
1-13	川内市	41	男	現在、新規就農者の6割が定年帰農(文字どおり退職後に始める農業)者で占められているとのこと。今回の市町村合併により、手つかずの豊かな自然を共有することになるが、この豊かな自然を背景に「シルバーライフオアシス」を提言したい。高齢化社会といえども、60歳で定年退職した多くの人は、まだまだ元気で勤労意欲が高いのではと考えられる。しかし、現在の社会情勢では再雇用の機会は限られている。そこで先に述べた豊かな自然を相手とした農業・漁業・林業の滞在型就労(生きがいづくり)を考えてみた。方法としては、都会の定年退職者をターゲットにメディアを通じてPRを行い、(他所に先行されるとインパクトに欠け、二番煎じと揶揄されかねない。)希望者を募集する。地方で空家となっている家(公営住宅でも可)を安くで貸家として斡旋する。無償もしくは廃価で田・畑・舟・山林などを貸付する。素人でも始められるような支援体制(農機具のレンタルサポートや作物づくりの方法)をつくる。(村の人でOKなのは、地域の活性化。定住化にこだわらない(1年2年でやめて帰ってもOK)などではどうだろうか。インターネットなどで見る、東京の定年退職者は高速道路で2時間もかけて福島県茨木県の耕作地に嬉々として通っているみたいである。(本当に生きがいを感じている人が多い)本市が他市に先がけて高齢者のパラダイスをつくることは愉快なことであり、本市の大きなウリになると考えられ、爆発的にないにしろ着実な需要が見込まれると思うのだが…。
1-14	川内市	29	女	職員のレベルアップ(全国統一の事務をしているはずなのに、間違った処理をしている市町村があり驚かされることがある。)女性政策のレベルを下げて欲しくない。婚姻により退職が当然の町村は、時代遅れだと思う。
1-15	川内市			金太郎飴からの脱却。メジャーになりたければ自らのマイナーさを発見することが必須である。宝物は身近なところに転がっている。隣人は宝物に値しませんか。あの鎮守は守物ではありませんか。
1-16	川内市	51	男	健康な人・生活・山・川・海・子供・高齢者・夫婦等々ワンラックアップの健康が手に入るまちづくり。
1-17	川内市	51	男	自然の復活・手入れ・保全。川・森・海が生自然に近い状態で身近に存在することがかけがえのない財産である。そのためには、自然と共存するまちづくりの方法を地域自治の中で進めていく。田舎は都市にはなれない。田舎の宝物は自ら探り出すことが肝要である。九州では川西薩は田舎、大田舎である。
1-26	川内市	45	男	補助金が助成事業ありきで、応募のために事業を即席で立ち上げるような企画自体を早く止めることが何よりも。
1-29	川内市	55	男	串木野市を含め、東シナ海に面した新市になるので港を活かしたい。具体的には、川内港は工業港と位置づけ、川内港と世界のハブ港である「釜山港」、「上海港」、「常熟港」との定期航路化を図る。荷物については、中国から石材、穀物、野菜などを輸入し、川内港からは甑島の海洋深層水、中古機械、自動車などを輸出する。一方、串木野港は商業港と位置づけ、海づりなどの観光化した甑島と長崎港とを便数の多い航路として、九州管内の観光客を運ぶ。また、高速コースとして、新幹線川内駅と渡唐口と甑島(里)を時速約80kmで結ぶ航路をつくる。
1-37	川内市	58	男	旧市町村意識をなくするためには、長い月日がかかると思うので、小中高校生の払拭が大切。新市長杯なる全競技の大会が必要。薩摩国分寺を活用した各地の伝統芸能高居
1-42	川内市	28	男	市民に対しても外からくる人に対しても、もっときめ細やかな配慮が行き届いた”やさしい”都市になればと思います。自然を売りにしながらも、ゴミが多かったりします。公共、民間を問わず、市民へのサービスが行き届いているのか、疑問なところも多いと思います。何かしら都市全体が、公共民間を問わず、「やさしさ」を感じにくいような気がします。あらゆるレベルで、使命とか目的というものを見失っているような感じがします。(情性で動いているような感じ)新市を機会に新市は「やさしさ」をキーワードに、人が好印象を持ってくれるような町づくりを目指してほしいと思います。
1-43	川内市	39	男	東京や福岡の真似をする必要はない。川内やそれぞれのまちの良い所を再認識し、それを伸ばして行けばよいまちになるはずだと思う。(田舎だからよくないということはない訳だから)

1-51	川内市	40	男	田舎のよさを活かしたまちづくり。
1-54	川内市	28	女	それぞれの地域の売りを1つずつでいいから、見つけて決める。例えば、いちごのまち 温泉のまち つり 泳ぐ 買物 学生 おしゃれに飲む 気楽に飲む 米をつくる 野菜をつくる 広～い市域をゾーン化し同じものを集約し目玉にしてい。市域が広くなったからって心配いらぬ。だって、田舎の良さを売りにしていけばいいのだから。(何も無いところはそのこと自体を売りに)
1-57	川内市	44	男	漠然としたものですが、このまちに生まれてよかった 「大人になっても懐かしいふるさと」として、いつまでも心に残るようなまちであってほしいと思う。
1-58	川内市	29	男	地元のよさ、田舎のよさを自慢できるまちづくり。(近代化ばかりを追い求めず、ハコモノ建設だけに頼らず、今あるところから地域のよさを見直していくところから始めるべき)
1-61	川内市	42	男	「美味・安全な食のまち」を具体化するための施策がほしい。・学校給食の食材市内調達(経費増は市が負担、地産地消の一環)・市内食材による「料理の鉄人」コンクール(優勝者については、県外有名店における研修、市街地における店舗開設等市が支援、商業振興、市街地活性化にもつながる。)・「市美味安全の店」認定制度の創設(市内食材の調達率の高い食堂や居酒屋等について、観光協会等が認定。交流人口等にも寄与。・大規模な食の祭典の開催・マグロ冷凍施設及びフィッシャーメンズ・ワーフの整備等々
1-62	川内市	51	男	民間の自由な自活が可能なまち(あれもこれも行政に頼らない村まちづくり)
1-64	西薩衛生処理組合	52	男	海に囲まれた地区、山に囲まれた地区、川内川を控えた地区など、多様な居住環境があるので、子供達が定期的に交流できる教育を促進する。西薩衛生処理組合では、資源再生型社会に適應し、また、水質及び大気法規制の強化に対応できる新たな施設の整備を速やかに建設すべきと考えている。
1-66	川内市	58	男	基本的には、若者が定着できるまちづくり。若い人を雇う企業誘致育成 市民が楽しめる街(娯楽施設・公園・スポーツ施設・大型店舗等) 子供のために 過疎校の統合。地域と一体となった子育て、親子学習 最後に治安のよいまち、思いやりのある人間が育つまちになってほしい。
1-68	川内市	39	男	行政サービスが低下しないようなまちづくりをしてほしい。(現在のサービスが低くならないよう) 現在、図書館に移動図書館は川内市と串木野市、甕島地区の一部しかないが、全域に巡回できるように整備してほしい。
1-69	川内市	53	男	視聴覚ライブラリーについて 川内・串木野・入来・甕島の4ヶ所に教材・機器を配置し、地域内の子供会や社会教育団体などが手軽に使用できるようにする。又、機器の使い方などの講習会も開催する。
1-72	川内市	28	男	他の市ともっと深く連携して教育や政策を行ってほしい。
1-73	川内市	53	男	人を大切に作る街 お年寄りを大切に子どもを大切に、自然を環境を守り育てるまちづくり。
1-74	川内市	48	男	イメージ 川内市...中心都市(新幹線・新田神社・大綱引き・川内川) 串木野市...湾岸・冠嶽・漁業・浜競馬・つけあげ・さのさ 東郷町...ぶどう・藤川天神・鮎観光・温泉 樋脇町...温泉・癒し・奥座敷・サッカー・グリーンヒルゴルフ 入来町...温泉・入来城山ゴルフクラブ・きんかん・富士通 祁答院町...蘭牟田池・祁答院ゴルフ・温泉・パソコン 里村...漁業・キャンプ・魚釣り・イカ釣り 上甕村...漁業・キャンプ・魚釣り・イカ釣り 鹿島村...下水道日本一・魚釣り・イカ釣り 下甕村...海洋深層水・トシどん・竜宮城・魚釣り・イカ釣り 東の志布志港にないものを活かし、中国との交易(環シナ海に向けて) ゴルフ場3つ、公的宿泊施設、各町の温泉、特産品の開発。広域のスポーツ大会の実施、県、九州大会の誘致、そのための審判等の養成。行政面積が764km ² となると、現在の川内市の約3倍、支所機能を第2の心臓として活力が失われないように、住民サービスが低下しないように、人員配置や予算などを配慮してほしい。(支所機能が元気なことが新市発展の鍵)
1-75	川内市	53	女	老人と子供と一緒に学ぶ施設があったら。介護施設と保育施設と同じ敷地にあり、元気な老人から昔の遊び等を教えてもらうなど子供と老人と一緒に遊ぶ。周囲の畑には、一緒に花や野菜を植えるなど作る喜びと労働の尊さを学ぶ。現在のクルクルバスの存続をする。(温泉施設・リハビリ施設等への足の確保)市街地ばかりではいけないのでは!
1-76	川内市	54	男	住民が安心して暮らせる町(医療・福祉・子育て等において)づくり 若者が住みたいと思う町づくり(職・住・遊・学) 雇用の場の確保が必要不可欠。
1-78	川内市	33	男	特に街の規模が大きくなる必要はないと思います。子供が成長し、また川内にも帰りたいと思える様な街になればと思います。文化、環境、教育の面に力を入れてくれれば...。
1-82	川内市	25	男	隣の人の顔を知っている町
1-85	川内市	28	男	子供や若者がこの市に住みたいと思う市づくりをしてほしい。
1-87	川内市	27	男	テーマパーク等の施設を拠点として若い方から高齢者までが集える様なまちになって欲しい。若い人を定着させる為に、映画館もあってほしいと思う。
1-89	川内市	25	男	商業が盛んな町、文化活動が活発な町に是非ともしてもらいたい。
1-90	川内市	26	男	市民を思う街

1-91	川内市	26	男	自分の子供達が住みやすい街にしてほしい。
1-94	川内市	30	女	男女共同参画を県下で一早く判定したが、女性にとっては、もっと働きにくい社会になってきているのではないかと不安になることもある。母性や父性があるということは、大事なことであると思う。ゆとりのあるまちづくりや職場にできるよう独自の政策に取り組んでほしい。
1-96	川内市	42	男	市民に開かれた行政～行政に対する評価システムの構築。家庭教育の充実。福祉の充実～特に子育て支援の充実。市職員のボランティア活動の推進(管理職だけでなく一般職員も)～朝の活動、行事の支援
1-102	川内市	36	男	新幹線と川内道路(南九州自動車道)により、急ピッチでこの地域の便利が高まり、ひと・もの・かねの流れが活性化する。よって、新しい市が県庁所在地となる可能性、期待感が湧くようなまちづくりを行いたい。
1-103	川内市	35	男	既存小学校の存続。地区によっては公民館の統合は考えられるが、小学校区の統合は行うべきではないのではないかなと思う。子供から老人まで、休日にお金を使わずに過ごせるような、自然都市?「せんだい」を目指して欲しい。
1-106	川内市	54	男	黒潮と風に学ぶ「こしき」自然体験アイランドの整備 青少年の健全育成や家庭教育の充実をめざした海洋型の自然宿泊体験施設の整備
2-2	串木野市	33	男	一部の人間が喜ぶ街になってほしくない。住みたくなるような街。余計な所に税金を使わず、必要な所に。(中途半端な施設ではなくどこにでもないようなものを)
2-10	串木野市	50代	男	原発に依存しない電力事業の開発促進(3号機不用)山、川、海を活用し、自然あふれる心身ともに健康な町づくりに努めてもらいたい。構成市町村の観光資源を掘り起こし、いろいろなパターン(温泉めぐり、ハイキングコース、史跡めぐりetc)で一日中家族連れで過ごせるようなコースを提示し、長崎航路、中国航路等と合わせ、県内はもとより県外、国外の観光客の誘致につとめる。環境に害のない企業誘致を進める。
2-11	串木野市	37	男	無駄のない街住民があつた施設はいらない、あの橋はいらないというような声が上がらないように公共工事や施設建設は慎重にするべきである。お金や時間だけが無駄に費やされているのが多いのでは。子供達には広い緑のある公園で遊ばせたい。小さな公園がいくつもあっても魅力はない。
2-12	串木野市	32	男	臨海部、大陸部、甌島とそれぞれの特色を活かし、市外の人達が魅力を持つような町になってほしい。今回の新しい市に来れば、海、山、レジャーの全てが味わうことができ、余暇を楽しむことができるような...
2-20	串木野市	58	男	とにかく、働く場所と増やし活気のあるまちに
2-22	串木野市	55	男	国道3号沿いには、串木野から薩摩山～隈之城と北上した時に市境を感じるものは当然と思うが同一市になる今後は、せめて隣接する町とは広域あるいは一体感を実感できる町づくり(都市計画を含む)を工夫していくべきと考える。
2-27	串木野市	38	女	子供達の声をよく聞いて、安全で温かい環境の場にしてほしい。物事に責任を持てるような行動で子供達に接してほしい。
2-30	串木野市	35	男	無責任な大人を育てない地域づくり
2-31	串木野市	21	男	リサイクルやクリーンエネルギー利用を進め、エコ都市になる。串木野新港の未利用地に処理施設を建設するなどリサイクルの拠点になる地元企業とクリーンエネルギーシステムを開発し、積極的に利用する。それぞれの地域に特色を持たせる。ある地域は文化、ある地域は産業、飲食、商業などある分野に特化する事により、地域の存在感を高める。
2-32	串木野市	44	男	地方では高齢化が進んで、子供達は少なくなっていくため、ふるさとで働ける環境づくり
2-33	串木野市	31	男	ゴミの少ないクリーンな町
2-35	串木野市	32	男	大規模な運動施設を造り、大人から子供を含め、スポーツな盛んな街になってほしい。串木野は今まで素通りコースとも呼ばれていた。これからは、ちょっと立ち寄ってみたい、あるいは観てみたいと言われる街であってほしい。
2-39	串木野市	30	男	せっかく海に面しているのに、海洋スポーツに力を入れていないようである。B & G海洋センターを潮の満干に関係なく利用できる場所へ移動、カヌー、ヨット等についても十数年前とまったく変わらず、老朽化しているので、新しくして、もっと子供達が集まりやすい環境にしてほしい。
2-45	串木野市	52	男	行政として大きい事業計画もいいが、身近な住民サービス、それぞれに特色のある町づくりと住民が優しくなる行政指導、それぞれの地域の住民が自分から何でもやる地域づくり、やる元気のある所には行政から補助等を。
2-46	串木野市	44	女	私達の子供の頃と違い、今の子供達の生活環境が変わっているので、子供達への教育の指導、心の指導に力をいれていただきたい、子供達を助けてほしいです。公民館などに若い人達が加入されないのが、入りやすい公民館作りなどを若い人からお年寄りまでの声を聞いて、新しく作っていただけたらと思います。

2-50	串木野市	47	男	広い地域になり、又、市議の減少等により住民の意見が取り入れにくくなり、コミュニケーションが希薄になる要素が大であることから、カバーし得る施策を望みたい。(ケーブルテレビ、オプトーク通信など) 子供は親の背中をみて育つもの(親が郷土に誇りを持ち、積極的に活動している姿を是非残したい) その為には、現在の市町村でグループ活動、地域活動でがんばっている行事、活動等々を拾い出し、それを好事例として他市町村へ波及させていくべき(串木野市の例～田んぼゴルフ、ホテルツアー、どろんこバレエ、河川の清掃 etc)
2-53	串木野市	52	男	合併後もまちづくりの検討のため、各構成市町村から数名の委員を選出し、(仮称)まちづくり検討委員会を設置し、圏域の均衡ある発展に努めて頂きたい。
2-54	串木野市	26	男	今後、新幹線や高速道などが整備されると大都市に近くなり、人や物の流出が予想されるが逆に大都市から人が来るような都市部にな川西薩地区オリジナルのまちづくりが必要であると思う。
2-56	串木野市	39	男	後世代(50年後、100年後)を考えた都市整備、人とのつながりを大切にする後世代の育成、若者が定住できる環境の整備につながる政策(企業誘致、住宅等の確保)
2-57	串木野市	42	女	今まで「こんなものを造るくらいなら、道路の一本でも造ってほしい」とか「舗装して欲しい」とか「税金を安くして欲しい」とかいう意見が出ていたので、住民のニーズにあったものを望みます。地かえて祭りのように、行政と住民と一緒に取り組むことが、もっと他にもあるように思う。少数の住民でも大切にしてくれるまち(過疎地にももっと行政の手を!)街灯がいっぱいあって夜も安心して歩けるような明るいまち。市民が地元で働けるよう雇用の場をもっと作って欲しい。
2-58	串木野市	45	男	働く場の確保、保守施設、学校等の充実、大学専門学校等の誘致
2-60	串木野市	47	男	スポーツレクリエーション施設の整備、公園広場等の整備、安全な街
2-62	串木野市	38	男	合併にあたって機構整備されると思いますが、なるべく今の役場等の出先で住民の要望がかなえられるような密接な関係を維持願いたい。
2-65	串木野市	42	女	子供達のがのびのびと育っていくような町になってほしい。多少の障害がありながらも、偏りなく付き合いのできる町になってほしい。
2-66	串木野市	41	女	子供達のためにスポーツ選手(野球、バスケット、サッカー)やチームを招待して、実際に技術指導を行ってもらう。そうすることで子供が夢をもちやる気を出すのでは。
2-67	串木野市	30	男	住民と行政の距離が遠くならないようにしてほしい。医療・福祉の充実 交通・通信等の利便性の向上 子供と遊べる大きな公園 市民委員会を発足して市民の意見を取り上げられるようにする。離島の人と一緒に歩めるようにする。
2-69	串木野市	57	男	歴史と自然の里づくりとして整備を進めている花川一帯、西岳、串木野ダム周辺の完成を急ぎ、日本中から観光や視察者が訪れ、地域が活性化することを望む。
2-71	串木野市	50	男	「公共施設と交流施設を一体的に」施設を敷地内又は、立体的に配置し集約化を図る。1.公共施設:市役所、銀行その他 2.交流施設:案内所 市民の声を聞けるシステム(市民、民間の意見、アイデアを提供できる。優秀なものには公に公表し、報酬制度を採り、どんどん参加させる。インターネットも可能。) パソコン教室 体験施設 農水産物、加工品等の販売(地元の産物を生産者側で販売するシステム) 食の場 コインランドリー等 健康増進センター メディカルチェック付(高齢化の医療対策)
2-72	串木野市	28	男	今の枠組みでは、市域がかなり広範囲となり、また甕島とは海を挟む合併であることから旧市町村の住民毎の考え方もいろいろあると思うので、住民の一体感の醸成につながるようなソフト面での施策が必要であると思う。
2-78	串木野市	54	女	どのような大きな市になるかわからないが、やはり住民の声がとどく政治にしてほしい。子供達が自分達で考えて行動できるような場、あまり守りすぎるのではなく、子供自身で考え生活できるような場をつくってほしい。
2-80	串木野市	29	女	住民の立場になって考えることを心がけてほしい。利便性を追求することもいいが、それと引きかえに失われてしまう物にも目を向けてほしい。場合によっては、失われる物の方が、住民にとっては大切なものかもしれないのだから。
2-82	串木野市	35	男	合併して一番大切なのは、「住みよいまち」になる事だとおもいます。今まで各市町村で開催されていた祭り事や各地区公民館で実施されていた行事等も統一して行うべきだと思います。現在は昔と違い、交通や通信その他の面でかなり発展してきているので、昔のままの考えではよくない面もあります。住民みんなが明るく、楽しく、住みよいまちになる事をめざして新市になる事を望みます。
2-86	串木野市	54	女	新しい市が誕生したとしても、学校等の統合がなく現状のまま、たとえ小規模でも残してほしい。子供達が遠くまで通学バス等を利用することなく是非徒歩で行けることを願っています。
2-87	串木野市	48	女	各市町村の良いところを引き出してみんなが協力しあう。
2-88	串木野市	44	男	海と山、自然を活かしたまちづくり

2-90	串木野市	53	男	1.真に必要なハード事業の選別 2文化的な面での事業の充実(万造寺齋等の郷土の偉人の顕彰)
2-91	串木野市	39	女	子供達の未来のために、自然環境を壊すことなく、豊かな自然を活かしたまちづくりを行ってほしい。子供から老人、障害者まで安心して暮らせる福祉の充実したまちにしてほしい。
2-100	串木野市	31	男	高齢者向けの地域、若者向けの地域とある程度エリアを分けて整備してもよいのではないかと。
2-102	串木野市	35	女	職員同志はもちろんのこと、住民もお互い助け合い声かけあって、毎日楽しく過ごせるまちになってほしい。
2-104	串木野市	44	男	自然に親しめる地域、屋外で余暇を過ごせる地域、親と子自然とかをタイトルにした石像の公園、釣り堀、釣りイカダの活用、従来にない大きな市となる為地域の特色を活かした均衡ある発展と行政サービスの提供。
2-106	串木野市	50	男	学校区等の見直しも必要ではないか。合併することで、例えば冠岳小学校に野下小の子供が来て、ひとつの小学校とするとか、野下地区の中学生が生冠中に通学する等、考えられるのでは。また、通学バスを準備する。川内市が中心となるため、川内市に何もかもあるから良いではなく、各地区(市町村)の整備を行うべきである。川内市までは時間的にも遠い、若者から高齢者自由に行けない、交通の便が悪い。各市町村に川内市と同じ規模の物ではなくてよい、小さくても良いので整えるべき。体育館、文化ホール、福祉施設等
2-107	串木野市	50	男	地域格差のないまちづくりを行う必要がある。市民の代表である議員が選出されない地域が出てくる恐れがあり市民の声が届きにくくなる。選出の方法を地域別に定数を定めて、そういう恐れがないように制度の検討をしてほしい。
2-108	串木野市	44	女	串木野には一般の人達が一年中利用できるプールがありません。さのさプールは、夏休みだけしか利用できない。海水プールは利用価値のある物だと言う事を聞いた事があるのでもう少し利用期間を広げてみては...。シーサイドガーデンさのさは、温泉は出ないのですか？長崎鼻公園とキャンプ場とかいろいろ観光資源として利用できないものではないでしょうか。まぐろのまちと言われているが、今までまぐろ料理を味わわせてくれる所がなかった。最近、まぐろラーメン、ぎょうざが登場してとても良い事だと思う。サワーポメロは県外に送ると、とても喜ばれる。おいしいし、めずらしい、日持ちする。さわやかポメロとかも開発されて良かったと思う。本場つけあげとして串木野のつけあげは種類も豊富と言われている。観光資源である素材を生かし、開発して育ててほしい。産業が発達して働く場所が増えれば良いのですが...。ロータリーの噴水はきれいだけど、見て楽しむ場所がない。寿屋跡地はポッカリ空間が空いている気がする。商店街も活気あふれる...とは言えない気がする。有効利用を。
2-110	串木野市	55	男	周辺部では更に高齢化、少子化、過疎化が進むことが懸念される。特色ある教育や生涯学習を進め、そこで生活する者が夢を持てるような施策が必要である。若者や女性の発想を生かしたまちづくりを進める。
2-111	串木野市	44	男	とにかくエリアが広くなりすぎる感がある。全体的な一体感も必要ではあるが、まずは小さな地域でのまとまりを作っていくことが重要ではないか。地域での人と人とのつながりを大切に。
2-113	串木野市	39	男	街の広域化に伴い、住民サービスの提供のあり方に変化が生じるが、気軽にサービスを受けられるような体制づくりを最も優先して充実を図ってほしい。
2-117	串木野市	42	男	小学校区を地域コミュニティの拠点施設として整備しよう！市町村合併の時大きな問題となるのが、新市庁舎への距離である。これを解消するために、旧市町村役場は支所となることが多いが、今後ますます進む高齢化を考えると、より身近な所に窓口が欲しいというのが当然の要望だといえる。本地域は10近くの自治体が合併し、広い面積を持つ様になるため、特にこれに対する配慮が必要と考える。今後情報化が進み、自宅から電子申請等もできるようになるのだが、これらに対応できるのは主に若い世代であり、高齢者には手取り足取りアシストしてくれることが必要となるだろう。ついては、合併でメリットを生かす範囲内で、住居地の近くに役場の窓口を整備したい。小学校は基本的に児童が歩いて通える範囲に存在していると思われるので、高齢者にも通所可能な場所である。学校には少子化のために利用可能なスペースというのもあり、現在も市町村職員が一部配置されているので、この体制を一部充実して、市町村窓口の受け付け相談とするのはどうだろう。合わせて、地域住民のサロンみたいな空間を創れば、閉鎖的になりがちな学校現場にもいい影響を与えられるかもしれない。500名を削減しなければならない、合併自治体の適正職員数達成のための調整手段ともなる。
2-120	串木野市	30	男	自然エネルギーを利用した公害の少ない出さない町づくり 串木野市で発電所(自然エネルギーを利用した電力施設)を作り、串木野市民の投資で運営、投資者には電気料の無料又は、電気売った分の利益を払う。串木野駅に電動バイクを置き、無料でレンタルし市内で買物した人はJRの割引き20%~30% off
2-121	串木野市	51	男	高齢化社会への急速な移行と現在のような若者の就労場所の激減に益々若者が住みにくくなっている。就労場所を大企業に頼る傾向から地域の持性をいかすための就労場所作りを積極的に進めてほしい。
2-122	串木野市	45	男	町づくりの早い段階から、同じまちの市民としての一体感を醸成するソフト事業について検討・取り組むべきである。当初は、新市内の視察を市民に勧めたり実際に視察事業を実施すべきである。また新市の職員も新市の地理的条件や人、団体を知るために交流事業を実施し研修すべきである。この新しい市は、東京に遠い不便な町ではない。むしろこれからの世界に占める日本の役割を考えた場合、大変有利な位置にある。特に中国、東南アジアとの交流交易を考えると、国際都市としての機能を果たしうる可能性が大きい。この特色を最大に発揮することが新しい市の魅力となり特色となりうる。将来の新市の姿は、国際色豊かな町の雰囲気が漂う町であって欲しい。

2-123	串木野市	30	男	脱開発都市を目指して欲しい。作るのではなく、作ったモノの維持管理、活用を徹底する。作るだけが開発ではないと思う。例えば、子供の遊ぶ公園は草ぼうぼう、ゴミだらけ。管轄はひょっとすると市ではないかもしれないが、御倉山公園(今はジャングルと化し怖くて入れない)も、きれいに手入れをすれば街のいいオアシスになる。そういう、身近な事業を老人に委託事業として出すことで、利用する子供や親の満足だけでなく、ひいては子供達に喜んでもらえるという老人の生き甲斐にもなり、地域振興に繋がるのではないかと思う。
2-124	串木野市	47	女	人口7000人前後の町で合併せずにがんばっている所もあるという話を聞いた事もあります。あと、ひとりでもがんばっているのだとなんと応援してあげたい気分になります。合併して良かった悪かったは、何年か後にしかわからない事ですから、今は予想しようにも予想だにつかない。一体どのような未来都市になるのか…。かえって、世間の波に取り残されてしまった所もあるという事をききます。1人1人を大事に考えてほしい。これ以上の発展ははっきり言って、あまり望みたくありません。もう今で充分です。無駄な公共開発を(何度も何度も道路をほじくり返して舗装をしたり、土の上をセメントでぬりかためてほしくない)やめてほしい。自然と共存できる都市づくり。必要以外のものをいくつも作らない。例えば、この町は温泉の町、この町は漁業関係の町、この町は紙・IT産業の町といった具合に特色のある町づくり。あちこちにいろんなものをやたらと作らない。古いものだからと言ってやたらに壊さないでほしい。外国から来た人は、特別に東京、大阪あをあらためて観光するようなことはしません。必ず、京都・金沢等に出向きます。もっと日本のことを見つめてほしい。日本の良さをあらためて感じてほしい。日本はずっと日本文化を大切にしてほしい。"日本情緒"とてもいい響きの言葉だと思います。1本1本の草木類を大事に考えてほしい。ここに来れば、ほっとするとと言われるような町にしてほしい。そのためには、あまり手を入れない事だと思うのですが…。
2-127	串木野市	39	男	各種委員会等の委員として、民間から委員を選出しているが、学識経験者等の理由から高齢者が多い。学生の委員と選出したらどうか。大学生、高校生、中学生の委員を。
2-130	串木野市	35	男	市、行政で行うまちづくりには、期待が出来るものは少ないと思う。今までも、国主導の補助金づけにしておいて、金がなくなるとその場で打ち切る等、その場しのぎの行政を多く実施してきたからそのようなものを基本的に見直す必要があると思う。
2-131	串木野市	31	男	「安全に暮らせるまち」「他の自治体と往来の盛んなまち」「知名度のあるまち(いろいろな面で)」「住みごごちのいいまち」「平均年齢の若いまち」
2-135	串木野市	56	男	主要幹線道(国道3号線)の整備 川内・串木野の幹線道路である国道3号線は、川内駅前から木場茶屋駅まで片側2車線の拡幅が可能となっている。新市誕生では、串木野酔之尾から川内駅前までは片側2車線で結び一体感を出すことが1番必要と考える。高規格道路とは別問題であり、一体感を出すことにより親近感も生まれ、合併して良かったと後世に伝え残したい気持ちと、新市が活気ある町となるため提言します。
3-1	樋脇町	27	女	住民と行政が遠ざかることがないよう、住民にとってきめ細かなサービスが行き届くようなまちになってほしい。
3-3	樋脇町	49	女	「心豊かな子供」を育てるには「心豊かな大人」が必要です。
3-6	樋脇町	24	男	住民の声が反映しやすい環境をつくらなければならない。合併すれば当然、各地域の議員や職員の数が減るのは避けられない。そうなれば住民の声が届くにくくなることも考えられる。特に地方に行けば行くほどこのようなことがおこりやすくなるかもしれないので気を付けなければならないと思う。
3-7	樋脇町	41	男	若者の意見などが十分に反映する場をつくってほしい。行政サービスが全体に行き届くような連絡体制をつくってほしい。シルバー人材センターをより充実させ、その知恵が子供達に伝わっていくような場(行事)をつくってほしい。
3-8	樋脇町	54	男	公共施設の管理等 施設の効率的、多角的な運用を進めるため、民間委託、ボランティア協力、地域住民との関わりを深め、親しまれる公共施設として機能を最大限に生かす。公園、街路樹等身近な施設に対し、親しみを深めより効率的運用、利用をするため地域住民の参加を推進する。 中山間地域における学校の空き教室の開放による住民の文化センター的活用の推進 学校を核とした地域づくりの推進
3-14	樋脇町	42	男	子供達が自然と多く触れあうことのできる施設と老後を安心して暮らせる為の施策を充実させてほしい
3-15	樋脇町	26	女	各市町村において育まれてきたものについては(文化や各種活動)新市の貴重な財産として守り、行政と住民間の理解と納得のより発展できる“まちづくり”をかけた、行政と住民の新たな活力の場となるように
3-17	樋脇町	29	男	若者が住みたいと思うまちになってほしい
3-18	樋脇町	47	男	子供達のための環境や自然を守ってほしい。
3-19	樋脇町	25	男	いろんな事に積極的に取り組んでほしい。子供が身体を動かして遊んだりできる環境づくりをしてほしい。
3-23	樋脇町	19	女	子供達が故郷を離れても「就職はこの町に帰りたいな」と思うような町づくりをしたいです。
3-24	樋脇町	31	男	都市型と山間部での生活の差を埋めていけるような政策の展開。公共交通機関を利用しやすくする。(高齢者、幼児等が利用しやすいように)
3-25	樋脇町	36	男	新しい技術を導入したまちづくり
3-26	樋脇町	44	男	自然を生かした町づくりをし、子供達が伸び伸びと生活できる市の形成。

3-31	樋脇町	25	男	大きな市と合併する可能性が強いのなるべく今のいいところは残しておきたい。将来子供達が外へ出ることなく地元で働ける環境を作ってほしい。
3-32	樋脇町	55	男	市町村合併は21世紀の新しい地域づくり 住民がなおざりにならないように「IT化による新しい形での住民参加を考える。
3-34	樋脇町	23	女	広域合併ともなると各市町村にある施設等を統合させて新しく作るということも出てくると思う。そうなった際、今からの高齢者社会の事も考えて福祉サービスの充実した施設(特に車イスの住民も問題なく利用できるバリアフリーなど)を作ってほしい。今でさえ役場から遠い市街地から遠いというお年寄りには不便な思いをしていると思うので、そんな不便さを解消するためにも一人一人思いやりを持った行動がとれるようになってほしい。
3-35	樋脇町	49	男	諸手続、証明書発行、納金など近くで取り扱いが出来ること(高齢者対策の充実)
3-36	樋脇町	56	男	温泉保養基地、食糧供給基地として位置づけ 「しま、おか、みなと、みずうみ」それぞれが特徴特色を生かせる政策の推進 教育環境の整備(施設・整備の拡充)
3-37	樋脇町	25	男	町に住んでいる人、町はずれに住んでいる人が絶対に同じサービスが受けられるようにして欲しい。部落差別なんて言葉があってはならない。
3-40	樋脇町	49	男	将来、地域皆が心豊かにお互いを理解し、子供達の為に明るい未来が開けることを期待する。
3-41	樋脇町	35	女	各土地柄によって由来のある行政区名をつけていると思うが、新行政区名は重複してつかないように配慮してほしい。
3-45	樋脇町	56	男	活気ある町
3-47	樋脇町	55	男	支所機能の充実 職員の配置 農協が合併したが現在のJA樋脇支所には地元に通じた職員がいないため「ぬくもり」を感じない。
3-49	樋脇町	23	男	若者が定住し活気あるまちづくり
3-50	樋脇町	33	女	住民に対して親切でやさしいまち
3-51	樋脇町	43	男	合併後様々な政策が後退することのないよう精査し、充分協議すべきである。市町村の温度差がないよう、物、人、交流が頻繁に行えるようありたい。
3-55	樋脇町	40	男	合併することにより行政区域が広がることにより次世代を担う子供達に新しい市(まち)の区域、文化、住民等を早く知って欲しいことから各小中学校間又、地域間の交流事業等を取り組んだらどうか。
3-60	樋脇町	30	男	20～50代までが安心して働くことの出来るまち(保育所、老人ホーム、病院と併設する保育所等の設置)
3-62	樋脇町	31	男	現在の情報化社会から取り残されないようにしてほしい。
3-63	樋脇町	22	男	観光客など多くの人が集まる活気のあるまちづくり 各市町村の良い所を活かすまちづくり スポーツの振興に努める
3-65	樋脇町	59	男	子供から大人まで楽しく暮らせる魅力ある新都市になってほしい。働き盛りの若者が安心して働くことの出来る企業誘致、乳幼児の保育施設の整備から高齢者が安心出来る交流施設、高齢者向けホーム施設及び公営による医療施設を各地域に整備を期待したい。旧市町村の地域差別解消のために道路網の整備を図り、交流が図られるような政策を期待したい。
3-67	樋脇町	31	女	原発交付金に頼らないまちづくり
3-71	樋脇町	28	女	ひとつの町にとどまらず、合併した時、各市町村の学校の交流を活発にしてほしい。
3-72	樋脇町	25	男	若者が多く住めるように住宅などを増やしてほしい
3-73	樋脇町	51	男	少子高齢化対策
3-76	樋脇町	39	男	老人が社会参加しやすい街 子供が安心して屋外で遊べる環境づくり
3-78	樋脇町	41	男	過去の市町村枠にとらわれず合併後の新市がよりよき方向に向かうよう職員が率先して取り組むべき。発展するための痛みは痛みとして皆が共有し、不公平感がでないようにすべきである。
3-79	樋脇町	34	男	市庁舎を繁華街におくのではなく、広大な駐車場をとれる場所に新しく建設し、職員の気持ちを変える。
3-80	樋脇町	26	男	市中心だけが発展するのではなく、元町であったところが荒れないようにしてもらいたい。
3-81	樋脇町	40	男	将来に希望が持てる町づくり 自然と調和のとれた町づくり 住んで良かったと実感できる町づくり
3-82	樋脇町	32	女	一人一人を大事にする街であってほしい。福祉、教育も充実した政策を。合併したら幅広い交流もできるのでは。明るい役所を目指して町民、市民が交流出来るような雰囲気の仕事場にまた場があれば。
3-83	樋脇町	55	女	子供達が安全で生活をする事が出来るまちであってほしい。
4-2	入来町		女	職員の人数が少なくなっても、お客様に対する対応も明るい笑顔の挨拶から。違和感を与えないようにスタートして欲しいです。

4-7	入来町	23	女	合併する各市町村すべてを同じラインにまで、開発するのは難しいと思う。それぞれの土地の特性を活かして、観光のエリア、住居のエリアなどそれぞれの区域に合った開発が行われればいいと思う。また、これからは、高齢化がますます進むと思うので、福祉の分野に対応できる公的な機関、(職員も資格取得するなどして)が増加してほしい。
4-9	入来町	46	男	いずれにしても各市町村相当リスクを払って合併するのであるから、従来のイメージを持った考えでは成功は望めない。基本的な住民サービス部門、新たな行政サービスを検討するプロジェクト組織の構築、情報管理部門の強化など大枠を定め個別についてはそれぞれの部門にスペシャリストを配置し、ネットワーク上で意欲のある職員が参加新たなプロジェクトを構築する手法などが今後の組織の主流になると思われる。
4-10	入来町	36	女	形だけの合併でなく、住民が満足する様な内容にして欲しい。1つになる市・町・村が「合併して良かった」と思える仲の良い新市にして欲しい。子どもたちが将来合併して良かったと思える様に、子どものどんな意見もと上げて欲しい。
4-11	入来町	46	男	広域合併のメリットを生かし、一層の文化・経済等の交流を図る。 住民の声が、市政に生きるようきめ細かな行政組織の構築
5-2	東郷町	30	女	人の多い所だけでなく、各地区の方にも目を向けてほしい。小規模校にも。
5-3	東郷町	44	男	個々人のまた各組織や団体の利益、不利益もあるでしょうが、新市のまちづくりを話し合う場、特にまちづくりフォーラムでは新市全体の枠組みの視点で、まちづくりや子供の教育、環境問題のほか、先述した地域イベントや郷土芸能などの意見交換の場になってほしい。本町は「フルーツの里づくり」を推進しているが、樋脇町のホッケーのまちなど、このような市町村の特徴を残した、または融合できるものはそのようにして新市のPR等に役立ててほしい。
5-4	東郷町	47	男	新しい町になったら自分達の町(旧町村)は、どうなるのだろうという不安が根強くあると思うので、もっと住民への説明会を実施する必要があると思います。とくに本町は青少年健全育成に取り組んでいますが、新市になってからもパレードや子供会大会等の行事や児童数の減少に悩んでいる学校に他校区からも通学できる特認校制度は継承してほしいと思います。
5-6	東郷町	28	男	大きな町になるし、横のつながりがなくなる。子供の社会教育のためにも横のつながり、近所とのつきあいがある。まちづくりをしてほしい。
5-7	東郷町	48	男	広域になるので各地方が色々な面で取り残される事がないまちづくり。都市部に事業等が集中することなく、地方も今までと同じように配慮してほしい。各地方に市の目玉となるものを配慮して、各地に活気を感じるまちづくり 子供達も一市になって手を取り、仲間となったまちづくり こども交流(イベント) 各地の特産品等の交流
6-1	祁答院町	44	男	中心部だけ良くなるのではなく、周辺部にも気配りのあるまちづくりを要望します。小学校は地域住民の拠り所であるので小規模校でも統廃合することなく必ず存続してほしい。いろいろな施設を1箇所に集めるのではなく、分散して設置してほしい。(できれば旧市町村単位に)
6-3	祁答院町	48	男	都市部と農村漁村部の調和のとれた都市づくり ボランティア活動等が盛んで、こんな活動を通じ若者を社会性のある人づくりをしてほしい。高齢者の生き甲斐づくり政策 未婚者が多いので結婚対策 農地の荒廃対策 農業後継者対策(20年後を考えると心配である) 高齢化対策として福祉施設・設備の充実
6-5	祁答院町	39	男	既存の国際交流を発展させ、将来を担う子供達の人材育成を強化してほしい。新市の範囲が広範囲にわたるため、最新のIT技術を率先して導入し、地域イントラネット等導入し、地域情報化のまちづくりをしてほしい。開通予定の新幹線や空港へのアクセスも良いことから、県外からは観光、グリーンツーリズム等人の交流で賑わうまち。県都鹿児島市と対抗出来る拠点都市の形成を目指してほしい。
6-15	祁答院町	49	男	合併後旧市町村の公民館単位にて、10人前後の委員を選出し、特別推進協議会の会議を設立し合併後の政策等の審議を開催する。【この委員の中には、小・中・高校生も含めるべき】
6-17	祁答院町	32	男	旧市町村間に私たちは同じ市民なのだと思えるような政策をお願いします。(垣根をなくす。)
7-1	里村	48	女	新市～発展していくことを望む 我々へき地の村～平成の大合併という大きな波にもまれながらも、我々のスタンスと伝統を守り、前向きに流れていきたいとー。
7-2	里村	55	男	幸せを共有できるまち。 ・若者を中心としたまちづくりや政策を積極的に社会教育に、薩摩独自の気風をとりもどしたものを取り入れていく。 ・高齢者に優しい思いやりのあるまちづくり、政策 医療の技術・器械、システム、人材の充実。保健面での前向きなとりくみ。福祉面で思いやる心の充実をはかる。
7-5	里村	25	男	「離島であるので、多少閉鎖的になりがちでは？」との心配がある。こども達にもっと人事交流の場があればと思う。

7-7	里村	52	男	川西薩地区は、しま・みなと・おかとそれぞれに特異な分野を有する為、魅力に富んだ市となり得る。 過去の合併の失敗を繰り返さないためにも前例のない考え方の導入を図って欲しい。特別区の導入や議員への地区割当て等中山間地区と離島との受け持ち地域の交換、川内川と甕海峡の川下り、横断へのチャレンジ等川内川流域の再開発
7-9	里村	44	男	甕航路について 現在、甕航路九州商船との第三セクターによって運営されているが、新しく市が成立すると、また新しい構成による会社になる。その際新しい市は財政的にもかなりの規模になると思われるので、この新甕島商船に対し、増資を行い、現在のフェリー、高速船から、フェリー2隻によるピストン交互運航を実現して欲しい。それが無理なら、利用料金の引き下げを検討して欲しい。この航路は島の人々の生命線であるということを、充分理解・認識して欲しい。
7-12	里村	45	女	子供達が高校、大学等を卒業して帰ってきた時に、住居、働く場所がある所になってほしい。
7-14	里村	32	男	気軽に立ち止まって楽しめるまちづくり
7-16	里村	50	女	毎年人口が少なくなって来ています。若い人が働く場所、住居等を作ってもらいたい。
7-17	里村	44	男	新市になって新しい本庁舎がどこに配置されるかはわからないが、中央だけのサービス重視ではなく、小さな地区にもいきとどいたサービスの提供ができるようにしてほしい。 生まれ育った場所が就職や交通の不便さ等ですたれられもいなくなるようなことがないようにしたい。 各地区地区にあった産業の育成を行い、これからの子供たちが働ける場所を作してほしい。
7-18	里村	50	男	広範囲な合併により、行政サービスの低下が懸念されている。多くの市民がまちづくりに参画できるシステムの構築 「市民自らが主体となって考え、行動し、市民及び市が協働して推進するまちづくり」
8-1	上甕村	59	男	高齢化・少子化は地域活性化の妨げとなっている。景気が低迷している中で、まちづくり施策は重要であり、若者に魅力ある定住できるまちづくりを進めてほしい。
8-2	上甕村	49	男	地域ごとの特性をいかしたまちづくり
8-3	上甕村	62	男	・稚魚の放流とアワビ養殖や水産加工品の製造等水産振興対策 ・スポーツ、レクリエーション施設、集会施設の改修 ・アイランドテラピーによる健康づくりの推進(すのさき荘改修温泉化) ・生涯安心して住める地域づくり(高齢者生活福祉センター等温泉施設の整備) ・海岸への流木、竹、ごみ等の処理施策 ・保育園(又は保育所)図書館や集合施策等複合少子化交流施設の整備
8-4	上甕村	60	男	1. 住民の声が届くシステムの充実 2. 中央のみの施策傾向でなく、周辺地域への気くばり施策の充実 3. 地区に残されたイベント(郷土芸能等の文化)事業等は残す方向で検討すること 4. 公共施設の充実(病院等) 5. 交通施策の充実(定期船) 6. 福祉施策の充実(老人福祉施設) 7. 環境施策の充実(産廃・一般廃棄物・し尿処理)
8-7	上甕村	35	男	鹿島村でおこなっている「うみねこ留学」のように、都会に住んでいても子供を豊かな自然の中で育てたいと考えている親御さんも多いのではないかと思います。学区にとらわれず、島外からの小中学生を島にうけいれる制度を、もっと拡充してはどうか。また、休耕田も多くみられるが、それをもっと有効に利用できる方法はないかと考える。
8-9	上甕村	29	男	各市町村の特色を伸ばし、住民の意見を聞き老後幸せにくらせるような政策を行ってほしい。
8-10	上甕村	49	男	たすけあいをだいにするまちづくり
8-11	上甕村	43	男	住民が安全に安心してくらせる街づくりをしてほしい。特に弱者にやさしくもしくはいろいろな弱者をつくらないまちづくり
8-15	上甕村	47	男	各市町村の特性をいかす。

8-17	上甌村	35	男	人口がもともと少ない地域が、さらに減るのではないかというのが、合併に対する不安だと思う。そのためには、ハード事業よりもソフト事業に重点を置いてほしい。形に残りにくいですが、十分検討・実施することでその地域の人々にとって生きる実感がわくと思う。人口割の配分のみでなく、全体で何をするかを優先して事業を実施してもらいたい。各市町村がやっていた事業、全てをやる必要はないが、集約するのも全て大きい地域がとるのではなく分担・配分してほしい。
8-18	上甌村	43	男	現在の市町村毎に基本理念を掲げ、それに基づいた政策を進めてほしい。
8-19	上甌村	44	女	近代的なまちでなくて良い。 流行や大都会を意識せず、田舎の良さを十分に発揮できるまち
9-4	下甌村	33	女	合併した場合、子どもから大人まで交流の場を多く持てたらよいと思う！ 今すべて決めてしまわずその時その状況で工夫してほしい気もする！ <前年度までに住民アンケートなど>
9-5	下甌村	30	男	地域住民の声をよく聞き、改善又は状況の報告を細かくできる体制の構築 改善については、規模の大小でなく、緊急度を重視し、地区の均衡化を図る。
9-6	下甌村	27	男	地域の特性を生かした補助制度の創設(甌島に新たに定住し漁業に就業する方を対象にした助成制度など) 各地区の小学校の留学制度に対する補助(里親・留学生の親・両方の負担を軽減し、交流が盛んになって地域が活性化してほしい)
9-7	下甌村	38	男	・世界に通用する子どもの育成を図るため、強制的な留学制度を創設する(補助対象) ・独自の貿易が出来る様に、港の整備、法の制度を確立する ・各地区の伝統を継承しつつも、新しい文化を創造する。
10-2	鹿島村	51	男	子どもたちのために、一人一人の個性がのびるような政策であってほしい。
11-21	川内地区消防組合	43	男	住民の意見が反映されるようなまちづくり
11-28	川内地区消防組合	28	男	山、川、海と大変自然に恵まれていると思うので、これを活かした施設(公園等、近代的な建物ではなく)をつくる。
11-56	川内地区消防組合	40	男	何でもいいのですが日本一と自慢できるまちにしてもらい、全国にアピールできるもの 例:川内川の利用、福祉関係、住民のボランティア、大綱引き
11-64	川内地区消防組合	40	男	まだ、漠然としていますが、いいまちになってほしい。行政は基礎的な部分を担当し、住民が積極的に自治に参加し、いいまちづくりを皆で進められるような政策を期待します。
11-66	川内地区消防組合	41	男	新市町村がバランスにとれた事業の実施。また、今回の合併は、離島を含んでいるので高齢化が地域によって較差があるためそれらに対応できるよう適切な福祉サービスをしてもらいたい。また、議員1人あたりの住民の数が増え、地区から議員を選出できない等予想されるため、住民の声が公平に反映できるような仕組みを作ってもらいたい。
11-72	川内地区消防組合	55	男	広域となることにより、多くの名所・旧跡・観光施設がある。これらのルート設定し宿泊型の観光ルートを開発し、地域の活動にいかしてもらいたい。 新しい市になっても、人口増加することが活気のある町づくりに不可欠であります。新幹線が開通することにより、操車場ができたメリットをいかし、鹿児島のパットタウンをねらい、格安の通勤、通学列車を運行出来るようになることが活性化につながるのではないかと。
11-75	川内地区消防組合	44	男	決して1ヶ所に集中することなく、各機関の分散化を図り、地域の特徴を生かしていく。たとえば、社会福祉関連の機関はA地域にとり、農業、魚業関連はB地域に公共機関を設置するなど...
11-84	川内地区消防組合	19	男	子どもがスポーツを盛んにレベルの高い地域にしてほしい
11-92	川内地区消防組合	21	男	市民の声が反映する町
12-3	西薩衛生処理組合	38	男	原発のない町

12-4	西薩衛生処理組合	52	男	他市町村から遊びに来られる新市になって欲しい
12-5	西薩衛生処理組合	52	男	他市町村から新市に遊びに来れるまちづくり。(市内が人でにぎわうまちであって欲しい。)
12-6	西薩衛生処理組合	46	男	民意を反映させることは、全てのプラン(公園、施設、環境その他の企画など)を中央のコンサルにまかすことなく川内(市)独自のプラン(市民発想)にそった形で進められることが、生きた市になるのではないかと、又(工事関係においても)地元企業で可能な仕事については発注を分割してでも地元直轄で。 (担当職員は大変だが)そのことが地元活力につながり、又、税の有効活用(中央企業のピンハネ分)にもなる。
12-7	西薩衛生処理組合	43	男	原子力のない町
13-4	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	32	男	原子力発電に変わる発電所を作り、子どもたちに安心・安全な未来を残したい。
13-5	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	40	男	雇用対策を重視してやってもらいたい。新港をもっと活用してもらいたい。
13-7	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	40	女	温泉を利用した公共の施設。現在もありますが、他の市町村やお年寄りだけに限らず若者も一緒に楽しめる様な工夫をして、例えば大きな温泉プールや流れるプール、マッサージしながらイヤホンで音楽等が聞けるスペース、スポーツジム。宮崎県延岡市にヘルストピアという施設があり、一度利用しました。串木野市より人口もかなり多い市ではありましたが、子どもからお年寄りまでたくさんの方が利用されていて印象的でした。
18-1	上甕島バス企業団	53	男	都会にいる若者が新市へ帰り安心して働けるような職場、職業があれば、やがて結婚し子供なども、増えるような環境があれば活気のあるまちができるのではと思う！
18-2	上甕島バス企業団	32	男	合併するからには、今よりも住みやすくしてほしい。各税の見なおし、金融機関の見なおしなどを、おこなっていかないと、合併されても財政は厳しいのではないのだろうか？よりより町づくりを・・・
18-6	上甕島バス企業団	40	男	合併することでどうしても小規模なところの意見等が難しくなってくるのが考えられる、どの村、町でも高齢化が進む一方活気ある町になるには若者が増えることが、重点となってくるのではないだろうか。といっても島にしてみれば若者が帰って来ようにも働くところがないのが現状である。20年前とは違い海で働く人は少なく公共事業も厳しくなってきた。田舎育ちのものにとって生活するためとはいっても自然が壊れていくのは、僥倖がたい。これからますます高齢化が進むと考えられる。合併することで、若者が町へ出ていくことになるのではと心配する。人間が生活するためには、年齢的なバランスというものが必要ではないだろうか。何とか良い職場ができることを期待する。合併することで何もかも変わってくるとは思うが、各地区の伝統文化を考えてもらいたい。そして、生活の安定こそが、幸せであり、子供の成長のためにでもなると考える。人々が合併したことで、生活が安定し合併して良かったという声が聞けることを期待する。
4	個別応募・川内市	31	女	各世代がそれぞれある程度満足でき、各世代間での交流も当たり前の、すれ違う人みんなが挨拶を交わすようなまち・小さくても、ささやかでもいいから、たくさんの「楽しい」「おもしろい」「嬉しい」「便利だ」「為になる」「すてき」etc・・・という「プラス感情」を感じられるようなことが、至るところに、いつものように散らばっているまち
6	個別応募・川内市	35	男	地域性を生かした町づくり

その他(テーマ :テーマ ~ 欄で記入できなかった事柄等をご記入ください。)

	市町村名	年齢	性別	提言
1-10	川内市	31	男	もっと施設をつくるならば、人に優しい施設をつくらなければいけないと思う。
1-14	川内市	29	女	他市町村の人に話を聞くと、人事に派閥が反映されるらしい。新市になったら、実力で選んで欲しい。通勤は皆自宅から近い庁舎がいいに決まっていると思うが、職員の資質向上の為に、他庁舎への異動(交流)があった方がいいのではないだろうか。
1-19	川内市	51	男	楽しく暮らす 地産地消から自産自消に、あまったら地消にまわす。 祭りは、自分達で楽しむ。他所の人に見せるためではつまらない。 複式学級は、公費による家庭教師である。こんなぜいたくは他にない。 自分ができることは自分で、自分ができないことは自分達で、自分達でできないことは、自分達に役立たないと思え。 隣近所と共同で日常の仕事を進める「結」の復活
1-22	川内市	48	男	ほぼ合併する市町村の枠組みも定まりつつある。自分以外の市町村の歴史や文化、伝統、地理等知らないことばかりなので、まずはそのまちを訪れ学び知る必要がある。職場の飲み会や旅行等も他市町村で行うことも考えてみてはどうだろうか。
1-71	川内市	50	男	建設関係事業の進め方については、合併前のそれぞれの市町村の進め方の違いにより公平性を確保することは非常に難しいと思う。そのために、都市計画審議会のような第三者機関により実施箇所優先順位等を決定する。その課程、結果は公表する。
1-73	川内市	53	男	川内市という立地条件を考えたグローバルなまちづくり。
1-80	川内市	33	女	広域合併しても我がまちだけのことを考えずに、全体的に活力あるまちづくりを考えていきましょう。過疎化の進んだ郡部のことも考えましょう。町村住民が合併して良かったと思えるよう中心部だけで推し進めていかないで欲しいですね。給食センター方式をつづけるのなら、中心部の学校のみにして周辺の学校には自校給食をすすめてもらいたいです。その分の雇用も増えるのではないのでしょうか。小・中学校と自校給食で育った私にとっては、今の川内市のようなセンター方式では味わえない給食だったと思っています。大量調理ゆえに一度最悪な事態が起これば、大量食中毒にもなりかねないと思います。新しい市の名称は、現在の市町村名とだぶらない名称にしてほしいです。
1-104	川内市	41	男	産業振興による経済基盤の充実。少数集落でも安心して暮らせるまちづくりの推進(コミュニティの推進)。住民の声が反映される施策の推進 外に目を向けた施策の展開(国際交流、国際貿易の推進)。福祉・医療体制が充実したまちづくりの推進 障害者(弱者)に優しく、障害者がいきいきと暮らせるまちづくりの推進 学校教育環境や生涯学習環境が整備されたまちづくりの推進
1-105	川内市	48	男	私の住んでいる旧高江村でも合併後、現在職員の8割程度が地区外の便利な所に居住しており、寄田・久見崎・高江での選挙は里帰りとは他町の職員で実施している。災害対策についても同様であり、職員がいないと児童も少なく地域が活性化しないし、将来過疎化がますます進行すると思われる。伝統文化の伝承や消防団等の確保にも影響している。他市町村は合併後同様な結果になると推察される。新市の基礎となる地域が寂れることは、荒廃地の拡大や独居老人の増加など地域生活の崩壊を招く。広域化は効率化をもたらすが、現場を持つ課は必ず現場に行かなければ立会や検査ができないため、移動にともなう時間や旅費等をトータルで判断して、支所等の人選や人員の削減等を決定することが望ましい。各市町村にはそれぞれの得意分野を分散する。そのことが地域の自信と人との交流につながり、活性化をもたらすのではないだろうか。
2-1	串木野市	41	男	現在閉店になっている店(寿屋や中心市街地の中規模店)を若者に開放し、若者のイメージ(商店、パソコン教室(先生も生徒で行う))で何でも自由にさせてみる。
2-18	串木野市	42	男	楽しく遊べて、安らげるまちになってほしい。
2-72	串木野市	28	男	合併前のかけこみでの建設事業(ハード事業)は各市町村ともやめてもらいたい。
2-94	串木野市	38	女	温故知新 平和で豊かなまちづくり
2-107	串木野市	50	男	子供達が安心して働けるような企業がどんどん進出してくれるまちであってほしい。中心地までの到達時間を30分以内で行けるよう交通体系の整備を行ってほしい。行政が進めている事が住民にとって好ましくないと判明したら、速やかに再検討し、修正ができるように弾力的な行政にする。特に(長時間かかる大型事業等)子供をたくさん産んでも安心して暮らせる制度。子育て支援を充実してほしい。

2-109	串木野市	34	男	”13万都市”とは言うものの、たかだか160人/km ² の規模の市でどうなるのでしょうか...。本当にいいまちづくりができるのでしょうか？人は街だけに集まり過疎は進みませんか？子供は多くなりますか？高齢者は？田畑は荒れませんか？机上の事務作業だけでは「時間がない」というのを理由に無理やり合併が進むのであれば誰のために合併するのかわかりません。”住民の福祉”のためになるような合併にしてください。よろしく。
2-110	串木野市	55	男	合併になると職員数も大幅に減る。地域によっては、職員が地域行事や地域役員として中核になって活動している。合併によって、特に周辺部の人口減少地区で地域活動が衰退しないようにしなくてはならない。現在、本市が採用している嘱託員制度の充実と強化を図る必要がある。現在、ウッドタウン等の住宅施策が進められているが、川内市は土地(住宅用地)が広く、中郷地区や温泉のある樋脇町、入来町方面へ定住圏が広がっていくのではないかと。麓地区や野平地区、照島地区の住環境の整備を急ぐ必要がある。合併する市町村は、それぞれにイベントがあり、それがそれなりに定着している。これらを合併後の新市のイベントとしてどのように位置づけし発信していくのが大切である。新しい住居の意思統一を図り、自分たちのイベントとして育てていかなければならない。
2-111	串木野市	44	男	合併特例債などの活用については十分留意し、後々財政負担にならないように。(合併に際しては、各方面から要望も多くなると思われる)特にハード面は。人口密度の面を考えると、地域の活力を維持するには人的確保が必要。安易に類似都市云々によるような定数管理にならないように。「合併をするから何かしないといけない」と言った流れがあるような気がする。これまでのそれぞれの地域の歴史を大切に、今までの形や流れを残す、不必要なことはしない、ということも必要ではないか。
2-112	串木野市	30	男	川西薩地区での合併は反対です。もう一度、市民にアンケートをとるなりしないのでしょうか？市民の方も合併ということに対して考えが最初と違うと思うのですが...。なぜそんなに焦って合併を推し進めようとするのでしょうか？他の市町村よりもどんどん話が進んでいっていますよね。本当に合併しないといけないのでしょうか？合併せずに何とかできる方法もあるのではないのでしょうか？それでも無理な時に合併をすれば良いと思うのですが...。川西薩地区と合併しても、JRの第3セクの問題、原発の問題、いろいろありますよね。多分、どこも合併しても問題はあるとは思うのですが。
2-116	串木野市	37	男	職員の意識改革 串木野市のことならわかるけど...では駄目
2-120	串木野市	30	男	ローターからドリームキャピターまでの屋根をつけて車の進入を禁止する。
2-121	串木野市	51	男	現在のまちづくりプランはあまりに行政側主導のなっていると思う。プランづくりについては、むしろ民間主導にしてそのプランを行政が引継ぎ事業を推し進めていく方法が良いのではないかと。行政について、あまりに国が統一的なものを押しつけているのではないかと。国の官僚が机上論をつい押しつけてくると思われる。地方の時代というのであれば、もう少し地方に権力を分散してやりやすいようにすべきである。
2-127	串木野市	39	男	採用試験の再検討。点数だけで採用したのでは最近役所に採用されたような住民に十分あいさつもできない人間ばかりなので、人格重視の採用を導入する。職員の研修で自衛隊に1ヶ月入隊させる 途中脱落者はクビ。まちづくりの主役は住民。役所の職員はオブザーバー
2-130	串木野市	35	男	2市4町3村とつなぐ組織(民間レベルにおいて)は、存続していないと思うが個人レベルを除く)これからこの合併に合わせて集約が始まるであろう。団体の育成が必要であるから時限的な補助金制度の確立(本市だけでなく全市町村に)
2-131	串木野市	31	男	今回の合併相手の東郷、入来、祁答院については正直言ってほとんど知らない。町の雰囲気、位置関係、特徴、名産品など全くわからない。どこかへ行くときに通ることもない。そういった町と同じ市になるということなので、地域としての一体感は今までより薄まると思う。どういった町なのか。住民に伝えることが必要ではないでしょうか。
2-139	串木野市	54	男	高齢者医療対策として保健事業の充実 住民に密着した生活環境の整備 不法投棄対策 牛豚のふん尿を処理し堆肥化する施設の建設
3-1	樋脇町	27	女	最近、住民や市の職員から“吸収合併”という言葉をよく耳にします。小さな町も大きな町も住民も職員も“合併で新しいまちをつくる”というような意識がもてたらと思います。
3-2	樋脇町	35	女	子供達に新しいまちはどんなまちになってほしい？と聞いてみることも大切だと思います。これからの子供達の夢のある意見を取り入れて欲しいです。
3-5	樋脇町	23	女	職員の能力の向上を図る研修なども充実させてほしいです。仕事の量などによって係りの人数が少なく負担が1人の職員ばかりにかかることのないように職員の必要な声には耳を傾けていただきたいです。
3-7	樋脇町	41	男	人事の交流があるのでネームプレートを大きく「ふりがな」をふって住民の方に早く覚えてもらっては。

4-2	入来町		女	入来町を良くするも悪くするも、行政、町民だと思います？それぞれが協力し合って(意見交換を聞いたり)助け合って。学生も就職率が少なく、大人もリストラ時代です。～デフレ時代～今までがあまりにもいろんな面で恵まれ過ぎていましたから、今からでも物を粗末にしないよう、親・子・家族・学校での話し合いの場を持つことが(正月ももうすぐです。お年玉も小・中・高とそれぞれ出来れば一律に…声かけも必要かと思えます)裕福な生活から下げて生活することは、家計もやりくり大変になります。非行も多くなるのでは？そうならないように子供達にも仕事(手伝い)を与え、家庭で自作・自給の体験を…田植えは、各小学校でもありますが。
4-6	入来町	22	女	工夫したいこと:町の景観。歴史的建造物が多くある地域ならば、その周辺の環境にも配慮する。歩道は雰囲気を感じさせる石畳を思わせる色合いのものにする。中途半端な茶色やアスファルトでは、全体の景観が崩れてしまう。いかに歴史的建造物であったとしても、周囲に同じ時代の香りを感じさせるものがまったくなければ、見ただけで終わってしまう。合併すると、全体としてもさることながら、地域ごとに何を特色とするかも考えなければならない。そして、その特色を県内外に定着させることが課題になると思われる。施設について:図書館や博物館等施設について共通して言えることは、どこも月曜が休館日であることだ。一斉に施設が休みになってしまえば、外から訪れた方々を迎えることができない。また、屋内で展示してあるものを単に見るだけではなく、建造物群がある中に、家屋を利用してその地域の伝統的な食べ物・名産品を出す茶屋を造ることも良いのではないかと思われる。道路際にある「道の駅」も多くの人に利用してもらうという点では有益であるが、建造物群を見て回って終わりではなく、その場で食も味わうことも、訪れた人々は求めているのではないだろうか。「魅力のあるまち」とは「立ち寄りたくなるまち」であると思う。
6-1	祁答院町	44	男	既存の行政サービスのレベルを低下することのないようにお願いします。中心部だけの整備、開発でなく旧市町村の区域にも配慮した整備、開発をし、周辺部が取り残されることのないようにお願いしたい。現市町村の庁舎は支所として残ると思われるが、交通弱者の利便性も考慮し、相当の機能を支所に残すように検討をお願いしたい。
6-2	祁答院町	55	男	新市の関係市町村より階層別(20代5人、30代5人)の構成職員により年数回のまちづくり等についての意見交換会をする。
6-3	祁答院町	48	男	新市名称「西薩摩市」「西さつま市」「東シナ海市」「温泉(おゆ)市」「温泉(おんせん)市」「山海(さんかい)市」「健康市」「幸福市」「ハッピー市」「西日本市」「西鹿児島市」
7-1	里村	48	女	「新市」という大きな型の中で、我々里村は、海を越えた住民レベルの交流の機会をふやしていくべきである。合併しても町や村々が、それぞれの個性を自覚し、尊重し合えるように。 里村は、今まで大切に守ってきた、習慣、風習、祭り、行事を伝統として、「新市」へアピールし、交流し合う。人々の往来も多くなるのでは…。そして、豊かな自然と、その産物を「新市」の市場の中で、活かしたら一。そうすれば「新市」の中でも、重要なもしかして貴重な観光スポットとなるのではないだろうか。
7-2	里村	55	男	今輝いている世界の都市は中国の上海市であるといわれている。日本の都市で一番そこに近いのは、川内市中心とする合併してできる新市である。上海と何らかの形で姉妹都市のような交流の糸口となるような契約を結ぶ。そして、いろんな形でその交流を発展させ中国との交易の中心地となるように施策を進めていく。まず、定期的な航路を開設すると共に交流活動を進め、若者をひきつけるような施策を考える。そこから各方面へ接触し、発展可能な方向性を見出していく。 中国では社会主義体制が崩れ今後一番いろいろな面で伸びていく国であるといわれている。一番日本で上海に近い市としては新市合併を機に何らかの方策を講じるべきではなからうか。
8-1	上甑村	59	男	全国的に離島と本土の合併は少ないと思われるが厳しい中にも、全国のモデルとなるまちづくりを期待します。
9-3	下甑村	48	男	議員を合併市町村から最低でも1名～2名選出できるような地区割にできないでしょうか。
11-45	川内地区消防組合	38	男	今、地球環境保護とかいろいろ言われていますが、エネルギー、主に電気については火力・原子力大きな発電所があるのでクリーンエネルギーのまちを掲げてソーラー発電の開発に協力・後援をして公用車は電気自動車に全て換え、電源をソーラーエネルギーに頼るとか、ゴミ焼却もダイオキシンのでない物にするとか環境にやさしいまちづくりはどうか 宇宙観のイベントをしてはロケットで有名な内之浦や種子島と何かつながりを持つとか宇宙飛行士の毛利さんと呼び、宇宙の不思議とか後援をもらう。宇宙飛行士体験のできる施設を造る。
12-9	西薩衛生処理組合	48	男	し尿処理施設に働く者として…現、西薩環境センターも稼働以来23年を経過し、施設の老朽化が目立ち、臭気等対策についても、十分行き届かないのが現状です。地域住民との信頼関係を維持するうえからも処理施設の更新について、真剣に検討する必要があると思います。

13-3	串木野市・市来町・東市来町衛生処理組合	45	男	合併による生活圏、環境等の大幅な変化がない事。
1	個別応募・串木野	56	女	<p>11月16日に、岐阜県の大野町で「男女共同参画フォーラム」があり、ワークショップ・あなたと私のまちづくり～輝きたいあなたを支援するワークショップ～に参加、意見交換をして参りました。このワークショップでも、垂井町・神戸町・美濃市・大垣市のまちづくり代表によるそれぞれの市町村合併への意見が出ていました。出てきた言葉に…情報の必要性、行政への発信、まちづくり条例の可否、住民参加へのシステムづくりが必要、情報公開、行政からのトップダウンと住民からのボトムアップ、住基ネット、知るべき権利の情報、どこへ行ったら安心して手に入る？等下記に内容の一部と私の感じた事、市町村合併への思いを書きます。</p> <p>テーマは“あなたと私の「まち」づくり”を考える手掛り 1000年単位の文明史的大変革期に突入…1987年を境に世界は変わった。量 質への転換 ・三つの条件が「暮らし」と「価値観」を変えてゆく 政治の私物化…2世、3世議員の事。政治が国民の方を向いていない。医療技術が爆発的に変わった。技術革新、イノベーション、情報公開etc “システムの再考”が求められる</p> <p>日本社会の現実には女性の社会参加を抜きに考えられない…21世紀は人間としての共同参画時代、協働参画社会。「まち」づくりは「人づくり」。「人づくり」は「感動づくり」！！人間力を無視してのまちづくりは出来ない。共通の感動を持つ事、創る事。感動 最小効率の最大効果 まちづくりの キーワード 感動づくり 「右肩上り」の社会と「右肩下り」の社会 右肩上りの社会の行き着くところは満足した社会。これは動かない社会…今まで。右肩下りの社会は今までの価値観を革命的にといいののか、変える必然性がある。…感動づくりのまちづくりには、確かな未来が待っている。レスター・サロー教授の「ゼロサム理論」が示唆するところ 未来につなげるまちづくり、感動づくりには市町村などが共通事業をやることによって、大きさ広がりを持つ。レスター・サロー教授の言葉に「一極集中は自滅への道」がある。だから、違いを受け入れ、違う価値観を受け入れ、異分野の交流を進めよう。フランス型の行政のやり方 フランスの市役所では、問題をかかえた住民が訪れると1階のレセプション・ルームに通されて、まず市長が対応する。その内容にしたがって担当部課の責任者が呼び出され、「これに対しては君の権限で予算をどれだけは使っている、それ以上使う内容になるなら私に相談をしてくれ、あとは任せ」と指示を出し、そして今度は担当者がその人と話をします。日本の市役所内もフランスと同じにしるというわけではありません。ここで言いたいのは、日本型の役所の問題解決というのは、責任の軽い方の人から対応しますが、フランス型の場合は、一番責任の重い人が最初に交渉の前面にでてくるということです。それくらい、日本はある種の発想転換をすべきときにきているのではないかと思うのです。</p> <p>これからのまちづくり これまでのまちづくりは、自分の市や町は、どこそこの県やどこそこの市よりも頑張っているということをそこに住む住民にではなく、他府県の人から評価してもらいたい、言ってもらいたいといったような町づくりをやってきました。いま、これが明らかに変わってきたのです。そこに住む人々のコンセンサスによって、これがいいと判断されれば、たとえ他の地域の人たちに遅れているといわれても、そこに暮らす私たちが幸せなら結構、他人の評価など気にしないという、自分の目線で選ぶ時代になってきたのです。そうした基準をむしろ他地域の人々が正しく評価してくれればなお結構というわけです。これは、非常に重要なキープポイントです。20年先、50年先、100年先を見つめ提言する人も必要 いま、この右肩下りの時代には「原点回帰」と「未来をみつめて」が同義語となりつつあります。日本人本来のアイデンティティーと地球環境を見据えた地球人としての私達のありかた。</p> <p>日本人本来のアイデンティティー……島国、村意識、農耕民族(弥生人)、富士山鎮守の森、自然崇拜、和敬静寂etc 地球環境を見据えた地球人……水、海洋、宇宙、引力、磁波、太陽、植物絶滅危惧種、温暖化、自然回帰etc</p> <p>新しい市の在りかたも、「原点回帰」と「未来をみつめて」を融合させ、気持ち・心・精神的なものをバックボーンとした、新しい市づくりを提言いたします。形あるものは、いつかは崩れ去っていきます。しかし、精神的なものは人類が存続するかぎり続いていきます。</p>

7	個別応募: 串木野市		男	<p>串木野からですけど今の町・村・市名はどんな市名になるか解らないけど、区にしてあとは町か字名を付ければそのまま電話も名前を残るのではないですか。小異は残し大同に尽くです。これからライフラインも兄弟並みに成る訳ですから助け合う意味でも人の流入がより活発になりなければ行く道が楽しみがないです。川内に自衛隊がありますけどこれを利用して海上自衛隊の舟を串木野に持って来て寄港してもらえば隊員達が買物土日などは飲食業も活発になり商店街も外部からの人で賑わうのではと思います。川内市が経験しているから教えて下さい。串木野は航空自衛隊のジェット機(戦闘機)を払い下げるように書類もあり後は場所です。まだあるけど、今回はこれです。不景気ですから国も協力してくれると思います。小さな市ですけど、互にまとまるとこんな嬉しい事はないです。</p> <p>不況にあえぐ底辺の経済状況、合併を機に箱物の建物で行政サービスでやっていると思うけども中味は大体赤字で住民は苦言を言っていますし、景気が悪いから尚更閉鎖か。必要な時だけとゆう意見が大多数です。入館者は同じ人をカラムードしています。一部の業者との補助金でのゆ着が串木野には有りますし、見直して下さい。それと私共は商店街の空き店舗をさつま狂句、川柳、俳句などの講座をしようと考えており又学生の活字離れに役立つと思います。又商店街がやっているシールチップスタンプの抽選も1ヶ所だけでなく各店で抽選するとその店に行き、又あの店で当たったと又興味をもって買い物をするし一極集中でなく各通りも喜ぶと思います。考えて下さい各店舗です。</p> <p>市外から人を引きつける魅力。知られなければ人は増えない。青果市場も串木野は川内の出張所に共存共栄で分かち合った方がいいです。串木野市場は生産者、小売業の為にして下さい。どうなるのですか残さないとしても農家も減ります。高齢農家は近くで小遣い銭孫のおみやげが欲しいのです。市の名前は、西鹿兒島市、南九市、ウエストサイド市(西側市)、鹿西市、癒原市</p>
8	個別応募: 川内市	32	男	<p>安全運転を十分に考えている 今の列車を有効に残す イベントをもっと生かしていく 大人から障害をバリアフリーが重要 全国の家族 川西薩へもっと多くの人が楽しみやっどん いろいろなイベントをそれぞれ考える</p>
11	個別応募: 樋脇町		男	<p>平成の大合併と題して国中を騒がせて如何にも何事か国家的に風雲急を告げるが如きである。震源はどこで始まったのか行政組織なのか財政組織であるのか衆参院及地方行政組織については全く触れていないのである。私は去る1月3日付南日本新聞記事「正月に街の未来を考へて見て」所見を述べる事とした極一般的に意って住民の指示を得ようと思ふ者は開口一番に住み良い街づくりを発するのが常である。特に持ち前の弁論によって人気を得ようと躍起になる心よい結果が出るとそれまでで遠い過去のものとして去って行く。即ち当事者は次の段階に入っているのである。要は、自己保身であって得にならないものには拒否する為、行政者に対する不信は増幅したら時を繰り返して行くのである。集落の住民が団欒に生活を営み行くのは集団的生活の知恵であり、法治国家的常識を身につけて居るからである。郷土の誇りとか親和は情緒豊かな人間を育み郷土愛と伝統を重んじ自然との調和によって伸び行く青少年の姿であって人間形成の一つである。個性は優しさを備えた貴重な人材が生まれるのではと思われる。比の部分が良く育っていないと幾ら教育による修正を行って見ても無駄というものであろう。拗って合併について今日までに各々の町村にて努力して来た発展策については各書管において充分と掌握している筈である。合併後においては更に値をつけて広域での利を發揮することが最も重要である。即ち旧来の境介的遍重感をすてて広論に訴へて合併の目的へ向かって前進しなければと思って居る。人口密度の状況教育施設社会教育各施設に対する行事の概要等多種多様である。町村合併という名分により従来よりサービスが低下する直ちに住民の失笑をうける樋脇町は過去に於て川内市農協との合併をする貴重な経験をしているのである。比の期に合併しなければ農協経営は破綻するとまでいわれたのである。今にして考えれば主導した県連に対し結果責任を取れという度いのである。即ち農協経営は都市型農協と化し、古来農業経営を目指し増産体勢に備へて身近な場所に設置した販売部、給油所、事務所、集荷所、精米所、等は総て閉鎖したのである。経営の内容について充分知って貰ひ度い事を先づお願いしておきたいのである。県連の運営状況について何回となく質問しても返答は帰って来ない。農協県連を廃止しなければ町村合併しても効果なし。即ち収入源となる各手数料は軍農の徴収する約8%との半分程度を徴収して居るのである。更に加へて出荷資財(ビニール、ダンボール)等農機具等(メーカー納入時)については農機資格に転加される比の額については実に驚くべきである。常に足場を固め、自らの護身策に専念す為に頭初の目的であった農家の育成を忘れて農家は行き詰まり専農は倒産しても県連は残る。最後には中央会が残る。今日まで農家より汲み上げた保険料貯金等を持って居るからである、現実的にいって、農協は職員の管理組合なのだ。合併の実施については事前検討を行って行動計画を樹立し、(審議委員選出については眞に地域の代表たる可人物を抽出する事も肝要である。更には、合併移行後自分の問委員会は存続し、合併の行き先について監視し公平な施策が行われる事を期待するところである。</p>